

石油系ドライ機

DO220FW

取扱説明書



(1.0.9)

目次

石油系ドライクリーニング機械を安全にご使用頂くための注意書	3
推奨ソープリスト表	11
1 機械の主な仕様	13
2 据え付けに関する事項	13
2-1 据え付け時のデータ	13
2-2 据え付け工事について	14
2-3 配管工事	16
2-4 電気工事	16
2-5 溶剤の取扱及び溶剤投入について	18
3 機械の外観図	20
4 配管フローシート	21
4-1 外圧式フィルター配管フローシート	21
5 洗浄方式及び0秒設定の各行程の動き	22
5-1 各洗浄方式の説明	22
5-2 タイマーを0秒にしたときの各行程の動き	23
6 操作パネルの説明及び静電気センサーの説明	24
6-1 操作パネルの説明	24
6-2 静電気センサーの説明	27
7 運転の仕方	28
7-1 行程の変更方法	28
7-2 ソープ自動投入設定の仕方	29
7-3 その他の操作方法	29
7-4 自動運転の仕方	30
7-5 手動運転の仕方	31
8 外圧式カートリッジフィルターの取り扱い	32
8-1 カートリッジフィルターの仕様	32
8-2 交換時期の目安	32
8-3 エレメントの交換手順	32
9 カーボンタンクの取り扱い	33
9-1 カーボンタンクの仕様	33
9-2 交換時期の目安	33
9-3 交換手順	33
10 各機器の点検調整	34
10-1 エアー配管系統図	34
10-2 各エアー機器の構造及び点検	35
10-3 排液弁構造図	36
10-4 洗浄弁、左右切替弁構造図	36
11 各センサー部の点検調整	37
11-1 洗浄弁、左右切替弁作動確認センサーと排液弁作動確認センサー	37
11-2 静電気センサーの構造と点検	38
11-3 ソープ切れセンサーの構造と点検	39
11-4 振動検知スイッチの構造と点検	39
12 機械の保守、点検、掃除	40
12-1 機械の保守	40
12-2 機械の点検調整	40
12-3 機械の掃除	42
13 インバーター及びオーバーロードについて	43
13-1 インバーターについて	43
13-2 オーバーロードについて	43
14 エラー表示内容	45
15 主な洗濯物の投入量	45
16 基礎参考図	46
17 クーラー接続要領図	47
17-1 内蔵型仕様タイプのクーラー	47
17-2 チラー仕様タイプ	47
17-3 冷凍機仕様タイプ	49

<付属書>

- 入出力端子番号表
- オートグリス取扱方法
- 洗濯事業に関連する労働安全衛生法・規則について
- 遠心機械の定期自主検査記録表
- 電気回路図

石油系ドライクリーニング機械を 安全にご使用戴くために

『注意書』

お守り戴きたいこと

石油系ドライクリーニング機械は、引火性溶剤で洗浄を行う機械です。従って、『少量危険物』貯蔵取扱規制の対象設備機器に該当します。本機の設置、取扱に当たっては所定の届出手続きを行い、必ず所轄消防署の指導に従って下さい。

山本製作所

ご使用の前に注意して戴きたいこと

石油系ドライクリーニング機械に使用する溶剤は引火性があり、その使用法を誤ると溶剤が静電気などにより引火し、火災など重大な事故に至る危険性があります。

このような事故を起こさないために、ご使用に当たっては必ずこの『注意書』をはじめ、『取扱説明書』注意書きのチラシやステッカー等をよく確認したうえ、取扱代理店の説明を受けて安全にご使用下さい。

取扱の不注意により起こった事故に関しては、当社としては一切責任を負いかねますので十分ご注意下さい。尚、ご面倒ですが代理店の説明を受けられた後、別紙の『試運転確認書』にご署名のうえ、当社までお送り戴きますようよろしくお願い申し上げます。

安全のため必ずお守り戴きたいこと

- ⌘ 設置、試運転の前に、必ず下記の安全上の注意事項をよくお読みいただき、正しく機械を設置し、正しくご使用いただきますようお願い致します。
- ⌘ 事業所の従業員全員の皆様にもご説明を徹底し、安全にご使用下さい。
- ⌘ ここに示した注意事項は
石油系ドライクリーニング機械を安全にお使いいただき、“事業所内・外”の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。
以下に記載した注意事項は誤った設置や、取扱により生じると想定される事故の“危険度”“損害の大きさ”“切迫の程度”等により『危険』『警告』『注意』の3段階に区分しています。
いずれも安全に関する重要な内容ですので、熟読し必ずお守りください。

表示の内容

石油系ドライクリーニング機械に使用する溶剤(洗浄液)は引火性があります。

下記の表示には細心の注意を払い、設置・取扱をして下さい。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った設置・取扱をすると、「人が死亡又は重傷を負う」危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った設置・取扱をすると、「人が死亡又は重傷を負う」危険が生じる可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った設置・取扱をすると、「人が損害を負う」あるいは「物質的損害」の発生が想定される内容を示しています。

⚠ 危険 表示の内容

この表示を無視して誤った設置・取扱をすると、「人が死亡又は重傷を負う」危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

⌘ 設備・作業場

- ◇必ずアース（接地）工事をして下さい。

専門の工事業者に依頼し、D種接地工事（アース・接地抵抗100Ω以下）をして下さい。アース工事が不備の場合は、静電気や異常電流の逃げ場がなく、静電気により「引火爆発」を起こしたり、「感電」事故が発生する危険があります。又、万一落雷やショートなどによりノイズ電流が流れ、機械の誤動作や焼損が発生し、それが元で火災や爆発事故などにつながる恐れがあります。

- ◇石油系ドライ機設置作業場周辺は火気厳禁です。

引火防止のため、作業場内及び排気口付近での次の行為は火種となるため絶対に禁止して下さい。引火により火災や爆発の恐れがあります。
* ボイラー・ストーブ・電熱器などの火気機器の設置及び持ち込み。
* 喫煙及びライター・マッチほか発火物の使用。
* 溶剤を入れた状態のまま、溶接や研磨作業等火花を発生させる工事。

⌘ 溶剤・洗剤

- ◇ドライクリーニング用の石油系溶剤を必ず使用して下さい。

溶剤は、引火点40℃以上の石油系溶剤（JIS K2201-5）を必ずご使用下さい。規格品以外の溶剤を使用しますと引火や爆発の危険性が高くなります。JIS K2201-5（石油系溶剤）に該当しない溶剤はご使用できません。又、誤って燃料油、アルコール、シンナーなど異種の溶剤を混入した場合は溶剤を抜き取り、全て新しい溶剤に交換して下さい。

- ◇溶剤（洗浄液）は必ず35℃以下で使用して下さい。

液温が35℃を越えると引火しやすくなり、火災や爆発の危険性が高くなります。液温が35℃を越えた場合は、機械の運転を一時中止し、液温が下がってから使用して下さい。

- ◇ドライ洗剤（ドライソープ）を必ず所定の濃度で使用して下さい。

ドライ洗剤（ドライソープ）を使用しない運転（ノンソープ洗い・素洗いなど）を続けると、溶剤が絶縁された状態となるため静電気が帯電し、ドラム内での放電により火災や爆発が起こる危険性が高くなります。洗浄品質と安全を確保するために、ドライ洗剤を洗剤メーカー指定濃度投入して使用して下さい。又、溶剤中の洗剤濃度が低下しないように、ドライ洗剤を逐次追加投入して下さい。

◇ドライ洗剤(ドライソープ)は帯電防止効果の高いものを使用して下さい。

推奨品のドライ洗剤又は帯電防止効果のあるドライ洗剤を必ず使用し、洗剤メーカー指定のドライ洗剤チャージ量を守って下さい。
洗剤メーカー指定濃度チャージ時における溶剤の体積低効率が $10^9 \Omega \cdot \text{Cm}$ 以下にならない洗剤(帯電防止効果が乏しい)を使用しますと、静電気が帯電し易くなり、火災や爆発の危険性が高くなります。
※推奨品のドライ洗剤リスト表は、注意書の末尾に添付していますので参照して下さい。

◇ドライ洗剤(ドライソープ)は引火点が 40°C 以上のものを使用して下さい。

溶剤より低い引火点のドライ洗剤を使用すると、溶剤の引火点が下がって引火し易くなり、火災や爆発の危険性が高くなります。
ドライ洗剤は引火点が 40°C 以上のものを使用して下さい。

◇静電気モニターが『起りにくい』の状態で使用して下さい。

静電気モニターのランプが『起りやすい』又は『中央』に点灯している状態で使用すると、静電気により火災や爆発が起きる可能性が高くなります。
必ずモニターのランプが『起りにくい』に点灯している状態で使用して下さい。
『中央』のランプは『起りやすい』を表示する前に、ソープを加えて戴くために便宜上設けたものです。従って『中央』を表示したら、直ちにソープを加えて『起りにくい』を表示するようにして下さい。

◇静電気モニター内の溶剤の流れを確認してください。

毎日始業時に、静電気モニターに溶剤が流れているか確認してください。溶剤が流れなくなると、正確な測定が出来なくなり、最悪の場合引火・爆発する危険性があります。溶剤が流れていない場合は、ストレーナーの掃除又は、原因を究明し速やかに措置をしてから使用して下さい。

▲ 警告 表示の内容

この表示を無視して誤った設置・取扱をすると、「人が死亡又は重傷を負う」危険が生じる可能性が想定される内容を示しています。

⌘ 設備・作業場

◇製品の改造禁止

メーカーの指示なく勝手に機械を改造したり、機能を変更したりしないで下さい。
思わぬ事故を引き起こす原因となります。

◇常に換気を十分にして下さい。

ドライ機の作業室に排気装置(換気扇など)を設置し、溶剤ガスが滞留しないよう常に換気を十分にして下さい。(換気扇は溶剤ガスの比重の関係から下部に設置して下さい。)
室内に溶剤ガスが充満すると、予期せぬ火花等で火災事故を招く恐れがあります。又、高濃度の溶剤ガスは人体に対しても有害です。

⌘ 洗濯物

◇ポケット掃除、金属類の点検を怠らず必ず行って下さい。

衣類をドラムに投入する前に、洗浄する品物の点検を行い、ポケット内のライター、マッチ、ヘアピン、コイン等の異物及びバックル等の金属製付属品類は取り除いて下さい。高熱や火花を発生し溶剤に引火して、火災や爆発を起こす可能性があります。なお、取り外せない時はプラスチックなどのカバーをつけて下さい。

◇乾燥機で乾燥させた品物は絶対に洗浄しないで下さい。

乾燥させた品物(衣類の水分がなくなる)を洗浄すると、静電気が発生しやすくなり大変危険です。静電気により溶剤に引火し、火災や爆発を起こす可能性があります。

◇引火点40℃以上の助剤(前処理剤、シミ抜き剤等)を使用して下さい。

ベンジン、アルコール、ガソリン、シンナー、その他40℃未満の助剤で処理した品物を洗浄すると、溶剤に助剤が混入し引火点が下がり、予期せぬ火花等で火災や爆発を招く恐れがあります。洗浄前に低引火点の助剤で前処理、シミ抜きを行わないで下さい。

◇機械管理及び取り扱い

フィルタータンクの蓋(ふた)は溶剤漏れのないように開け締めして下さい。
フィルタータンクの蓋を開ける時は、溶剤を十分に排液し、ネジを徐々に緩め、残液が漏れ出さないことを確認しながら蓋を開けて下さい。
蓋を閉める前に、蓋内面及びパッキンのゴミ、異物を清掃して下さい。
蓋のネジは均等に確実に締め、運転開始後液漏れがないことを確認して下さい。
ネジの締め忘れ、パッキン面に異物の噛み込みがあると、運転時に溶剤が吹き出し危険です

◇活性炭、吸着剤(カートリッジフィルターなど)を交換するとドライ洗剤(ソープ)濃度が急激に低下します。

交換直後の新しい活性炭や清浄剤(吸着助剤)は多量のドライ洗剤(ソープ)を吸着し、通常の洗剤投入量では、しばらくするとドライ洗剤濃度がゼロの状態となり、静電気が帯電し易くなり危険です。それに見合うだけのドライ洗剤(ソープ)を追加して下さい。[ドライ洗剤(ソープ)の追加の目安は、吸着清浄剤20ℓで約8ℓのドライ洗剤を吸着します]

◇ポタントラップは度々掃除をして下さい。

ポタントラップ(ゴミカゴ)が目詰まりしますと、排液・脱液時に溶剤が溢れ出る危険性があります。ポタントラップ(ゴミカゴ)は、定期的に掃除をし、特に毛布等ゴミの出易い衣類を洗浄する時は、毎回掃除して下さい。
又、ポタントラップの蓋を解放したまま運転すると、運転時に溶剤が飛び散り危険です。

◇溶剤を入れ過ぎた場合は保管容器に抜き取って下さい。

フィルター内の溶剤量を勘案し、タンクに規定量を超える溶剤を入れないで下さい。
フィルター交換時など、全ての溶剤がベースタンクに集中するとあふれ出して危険です。

◇ドアは確実に締めてから運転して下さい。

洗濯物を投入した後、ドアは確実に締めてから運転して下さい。又、被洗物の袖などをドアに挟んだまま運転すると、溶剤が漏れだし危険です。

◇運転中はドラムのドアを絶対に開かないで下さい。

運転中はドアを開かないで下さい。溶剤が漏れだし危険です。

◇ドラムの停止を確認し、被洗物の出し入れを行って下さい。

被洗物の出し入れは、ドラム（内胴）が完全に停止してから行って下さい。ドラムが回転中に手などを入れると、巻き込まれて事故のもとになります。



注 意 表示の内容

この表示を無視して誤った取扱をすると、「人が損害を負う」あるいは「物質的損害」の発生が想定される内容を示しています。

⌘ 機械設備

◇据え付け場所。

不燃材で区画された専用の作業場で、換気や不慮の液漏れに対応する防液が確保できる所に据え付けて下さい。又、水や蒸気がかかる所、ボイラー室、直射日光の当たる所、その他近くで火を使用している所などへの設置もしないようにして下さい。なお、据え付け、設置に当たっては、所轄の消防署に届け出てその指導に従って下さい。

◇電源のブレーカー（遮断機）はインバーター対応型を設置して下さい。

ブレーカーはインバーター対応型（高周波不動作型漏電遮断機）を取り付けて下さい。普通タイプのブレーカーを使用しますと誤動作し、運転中に遮断することがあります。

◇電源の配線は容量の大きい電線を使用して下さい。

元電源からの配線は独立専用回線を設け、指定された規格以上の電線を使用して下さい。規格より細い電線で接続すると、電線の発熱により火災になることがあります。

◇エアーベントの排出口の設置位置に注意して下さい。

エアーベントは近隣住民に迷惑（溶剤ガスの臭いや有害性など）のかからないよう高所に排気して下さい。又、エアーベントを低所に設ける場合は近寄れないようにし、いたずらや不用意な火気使用による事故が起こらないようにして下さい。

⌘ 機械管理及び取り扱い

◇機械の定期点検を実施して下さい。

溶剤漏れ、詰まり、異常音、発熱、金属腐食などの異常がないか、定期的に点検して下さい。必要があれば処置をしてから使用して下さい。事故を未然に防止します。

◇修理するときは元電源を遮断してから行って下さい。

機械の修理を行う場合は必ず元電源を切り、[修理中]の札を下げてから行って下さい。修理中に誤って電気を通じると感電したり、誤操作によりモーターやポンプが回転した場合非常に危険です。

◇パネル・カバー類を取り外した状態での運転を禁止します。

パネル、カバー類を取り外した状態で運転すると、「ベルトやプーリーに巻き込まれる」「溶剤が漏れた場合室内に飛散する」こと等により思わぬ重大事故につながる可能性があります。パネル、カバー類は必ず正規の位置にしっかり固定した状態で運転して下さい。

◇作業終了後は機械の電源及び元電源を切って下さい。

その日の作業終了後は、機械の電源及び元電源を切ってください。電源をいれたままにしておくと思わぬ事故につながる可能性があります。休憩時など、長時間にわたって運転しない場合も電源を切って下さい。

◇機械の上には物をおかないで下さい。

制御ボックス内の放熱が妨げられて故障や発火の原因となります。又、落下事故による怪我や故障の原因にもなり危険です。

◇輸送止め金具取り付け状態で使用しないで下さい。

輸送止め金具を付けたままで運転しますと機械が破損する恐れがあり大変危険です。

⌘ 異常対処

◇警報装置を解除し、危険な運転はしないで下さい。

故障や異常を知らせるブザー（警報装置）が作動した場合は、トラブルの原因を調べ、正常に回復させてから運転を再開して下さい。異常状態のまま運転を再開するとより危険な状態を招く恐れがあります。

◇緊急時には直ちに電源を切って下さい。

何か緊急に機械を止めなければならない時は、機械の停止ボタンを押し、元電源を切って下さい。なお万一火災や爆発が発生した場合は直ちに元電源を切って下さい。

⌘ 溶剤・洗浄品

◇腐食性の洗浄助剤は使用しないで下さい。

酸、アルカリ、その他腐食性の物質を含んだ洗浄助剤を使用すると機械が腐食し、ベースタンクに穴があき、溶剤が流出する危険性があります。
又、エタン、パークなどの塩素系溶剤は腐食の原因となるほか、有害物質としての取り扱いが必要となりますので、前処理などに絶対に使用しないで下さい。

◇漏れたり、こぼれたりした溶剤は速やかにふき取り、密閉容器に保管して下さい。

溶剤漏れやこぼれを放置しますと、引火事故や作業員のスリップによる転倒事故を招きます。機械から液漏れがある場合は速やかに修理し、こぼれた溶剤をウエス等でふき取り、十分に換気して下さい。
又、ウエスは廃棄物用密閉容器に保管して下さい。溶剤補給時にこぼれた場合も同様にして下さい。

◇取り出した洗浄品は速やかに乾燥機へ移して下さい。

ドライ機から取り出した洗浄品は、速やかに石油系用の乾燥機（スチーム式）へ移し乾燥して下さい。溶剤を含む洗浄品を長く作業室内に放置すると、溶剤ガスが漂い、予期せぬ火花により引火し火災事故を招く恐れがあります。又、溶剤ガスは人体に対しても有害です。

◇洗浄品を取り出す時は、皮膚障害や中毒等に注意して下さい。

石油系溶剤により皮膚障害（かぶれ、火傷）や、有機溶剤中毒になることがあります。洗浄品の取り出しなどの作業を行う場合は、ドライクリーニング作業用の保護手袋、エプロン、活性炭入りの簡易防毒マスクを装着して下さい。

◇洗浄品の入れ過ぎに注意して下さい。

定格以上の負荷量を洗わないで下さい。衣類事故につながります。

⌘ 廃棄物

◇使用済みカートリッジフィルター及び吸着清浄剤の廃棄。

石油系溶剤を含む使用済みフィルター、吸着剤、蒸留スラッジなどは特別産業廃棄物です。密閉容器に保管し、専門の廃棄物処理業者に依頼し適正に廃棄して下さい。

◇ドライ機の廃棄

ドライ機の廃棄時は、溶剤タンクやフィルタータンクの溶剤を完全に抜き取って下さい。溶剤が残ったままガス溶断などをされると非常に危険です。

平成 23 年 2 月現在の推奨ソープ

静電気の帯電量は、溶剤の体積抵抗率（電気を流す度合い）に密接な関係があり、体積抵抗率と静電気帯電量は、下表の関係があることが知られています。従いまして、当社は規定のソープ濃度投入時に、体積抵抗率が $10^8 \Omega\text{-Cm}$ 以下となるソープを推奨しています。現在体積抵抗率が $10^8 \Omega\text{-Cm}$ 以下になりましたソープは下記の通りです。

クリーニング溶剤の新液は $10^{13} \Omega\text{-Cm}$ 以上の溶剤です											
体積抵抗率 ($\Omega\text{-Cm}$)	10^7	10^8	10^9	10^{10}	10^{11}	10^{12}	10^{13}	10^{14}	10^{15}	10^{16}	10^{17}
半導電性液体				絶縁性液体							
危険な帯電を生じさせない物質				帯電する可能性のある物質		強く帯電する可能性のある物質				非常に強く帯電する物質	
静電気モニターのランプ 起りにくい				中央		起りやすい					

静電気モニターのランプと体積抵抗率の関係は、上表の関係となっていますので、機械の運転は必ず『起りにくい』にランプが点灯している状態で行って下さい。

『中央』のランプは、『起りやすい』を表示する前に、ソープを加えて戴くために便宜上設けたものです。従って『中央』を表示したら、直ちにソープ又は帯電防止剤を加えて『起りにくい』を表示するようにして御使用下さい。

推奨ソープ

メーカー名	品名	チャージ量
日華化学(株)	ハイアリンXOS	1.0%以上(メカ指定1.0%)
	ドライスター5	0.8%以上(メカ指定1.0%)
	ドライスターDX-5	1.0%以上(メカ指定1.0%)
	エスペロTC	0.8%以上(メカ指定1.0%)
	ドライスターNS-8	0.3%以上(メカ指定0.2~0.4%)
	ドライスターWパワーS	0.5%以上(メカ指定0.5~1.0%)
ゲンブ(株)	ゲンブクリーンK2	0.5%以上(メカ指定0.5%)
	ゲンブSX	0.8%以上(メカ指定0.5~1.0%)
	パワーソープSK	0.6%以上(メカ指定1.0%)
	ゲンブクリーンWA	0.5%以上(メカ指定0.5%)
	ゲンブクリーンWK	0.5%以上(メカ指定0.5%)
	ゲンブハーブドライS	1.0%以上(メカ指定0.5~1.0%)
	ニュースムースドライS	0.8%以上(メカ指定0.5%)
ゲンブクリーンNFコンク	0.6%以上(メカ指定0.3~0.6%)	
アルベス(株)	DN-300	1.0%以上(メカ指定1.0%)
	エースサニタル	1.0%以上(メカ指定1.0%)
	トータルファッションS	0.9%以上(メカ指定1.0%)
	サンドレックスDN400	0.7%以上(メカ指定1.0%)
	サンドレックスDNサニタル	0.8%以上(メカ指定1.0%)
(株) ツーエム化成	のびたくん	0.6%以上(メカ指定0.5~0.8%)
	トンネルゾール	0.7%以上(メカ指定0.7~1.0%)
	美イング	0.5%以上(メカ指定1.0%)
	CSソープ	1.0%以上(メカ指定1.0%)
	EM配合ソープ	0.8%以上(メカ指定0.7~1.0%)
	善玉バイオソープ	0.6%以上(メカ指定0.5~1.0%)
共栄社化学(株)	ライトゾールエース	0.8%以上(メカ指定1.0%)
	花子N	1.0%以上(メカ指定1.0%)
	ライトゾールフィット	0.5%以上(メカ指定0.5%)
ハンケル白水(株)	ラナドールOSD	0.6%以上(メカ指定1.0%)
	パワーソープ	0.4%以上(メカ指定0.4~0.6%)

エイエムジー (株)	ドライEX(2次液併用の事) シリコンソープ ドライEXホワイト	0.4%以上(メカ指定1.0%) 0.9%以上(メカ指定1.0%) 0.7%以上(メカ指定1.0%)
渋谷油脂 (株)	ネオベンザースーパーデラックス ネオベンザーWS-DX	0.7%以上(メカ指定1.0%) 0.6%以上(メカ指定0.4~0.6%)
花王(株)	ネオ オリジンMH	0.8%以上(メカ指定1.0%)
ライオン(株)	リパールNS	0.7%以上(メカ指定0.7~1.0%)
日本油脂 (株)	ソルノンエース NSソルノン	1.0%以上(メカ指定1.0%) 0.6%以上(メカ指定0.6%)
(株) コスモペトロテック	ペトロドライSFT ペトロドライSP	1.1%以上(メカ指定1.0~1.2%) 0.5%以上(メカ指定0.5%)
(株) エヌ・イー	NEロイヤルソープ	0.8%以上(メカ指定0.8%)
国際科学工業 (株)	ゾル・ソフト セミタイプ ハイ・ソルベントソープK-10 ハイ・ソルベントソープK-20 ハイ・ソルベントソープK-30 ノーブラシDXソープ(ターペン用) まゆ洗いソープ ダイヤソフト リンス・ゾル エコノミーソープ(ターペン)DX123 ドライー発 オールドライ ドライばっちり	1.5%以上(メカ指定1.5%) 1.2%以上(メカ指定1.2%) 1.4%以上(メカ指定1.4%) 0.8%以上(メカ指定0.8%) 1.0%以上(メカ指定1.0%) 0.8%以上(メカ指定0.8%) 1.2%以上(メカ指定1.2%) 1.2%以上(メカ指定1.2%) 0.7%以上(メカ指定1.0%) 0.8%以上(メカ指定1.1%) 0.7%以上(メカ指定0.8%)
(有) ニッコー技研	アールン21C	0.5%以上(メカ指定0.5%)
ラクナ油脂 (株)	エグゼソープ生 エグゼソープ命 テンMC	0.6%以上(メカ指定0.5~1.0%) 0.5%以上(メカ指定0.5~1.0%) 0.5%以上(メカ指定1.0%)

1 機械の主な仕様

機 種	DO220FW(外圧式)	
処理能力	処理量(JIMS)	22kg (20.2kg)
使用溶剤	石油系クリーニング溶剤	JIS K2201-5
ドライ機単体の寸法 (取外可能最小寸法)	間口×奥行×高さ	2885×1459×1818 mm 2405×1270×1790 mm
懸架方式	スプリング吊り方式	
ドラム寸法	直径×奥行	890φX565L mm
ドラム回転数	洗浄回転	25.35 RPM
	脱液回転	375.750 RPM.
ソープ投入	自動投入方式	投入間隔、投入量の設定可能
	投入量	0～990cc 迄 10cc 単位で設定可能
電 源	電動機, 制御回路	AC 200V 三相 (50A)
電 動 機	洗浄、バランス、脱液	3.7kw 6P(特巻)×2
	ポンプ	0.75kw 2P
フィルター	カートリッジ方式	330φX470LX4 本 外圧式エレメント
カーボンタンク	粒状カーボン	40 L
溶剤循環ポンプ	タービンポンプ(40A)	
溶剤容量	ベースタンク	490L
	ドラム	135L
	フィルター	80L×2
	カーボンタンク	60L

2 据付に関する事項

2-1 据付時のデータ

機 種	DO220FW	
機械最大寸法 (取外可能最小寸法)	間口×奥行×高さ	2885X1459X1818 mm (2405X1270X1790)
機械ベース寸法	間口×奥行	2400X1260 mm
点検スペース	機械後面	500 以上 mm
	機械左右側面	300 以上 mm
	機械上面	1000 以上 mm
コンプレッサー	コンプレッサー能力	0.2kw 以上
	必要圧力及び接続口径	0.4 ~ 0.6 MPa 10φ ホース
電 源	電動機	AC 200V 三層 (50A)
	全定格	8.15 kw
電 力	1回当たり使用量	約 1.4(1行程19分) kw/回
初回の溶剤投入量	600 L	

2-2 据付工事について

1) 届出手続

本機は少量危険物貯蔵取扱規制対象商品で、機械を設置する際は、あらかじめ所定の届出手続きを行う必要があります。

また、本機の設置は各都道府県市町村の火災予防条例の制約を受けますので、設置場所の選定、並びに周辺の防火措置などについては、所轄消防署の指示にしたがってください。

注) 届出期日は少量危険物（溶剤）の貯蔵、取扱を行う時まで届出を行えばよいが、施設の構造などが条例で定める基準に適合していない場合は、改善指示を受けることがありますので、これらの施設を作る前に届出を行ってください。

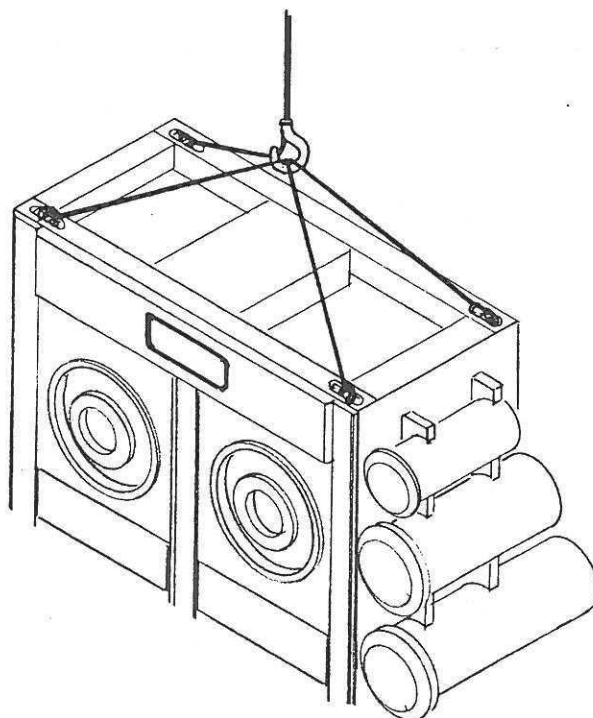
2) 運搬、搬入

a 機械の運搬、搬入に際しては、機械の輸送止め金具を取り付けた状態で行ってください。

b 機械の運搬、搬入に際しては、極度の衝撃を与えたり、機械の外装部に損傷を与えないように取り扱ってください。

c 降雨の場合の機械の運搬、搬入に際しては、必ず本体にビニールシート類をかけて、雨水が多少なりとも機械内（特に制御ボックスの中）に入らないように注意してください。

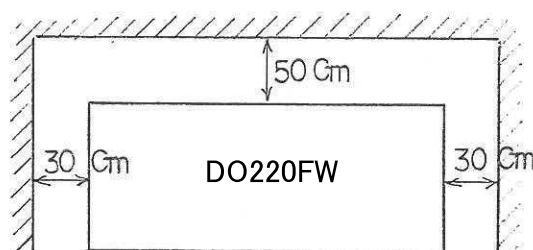
d クレーン等で機械を吊り上げる場合は、本体上部四隅の吊り上げボルトにフックを掛けて吊り上げて下さい。



3) 据付所要スペース

本機の保守点検を容易に行うため、機械周囲のスペースを右図の寸法以上取ってください。

機械上部のスペースは、機械最上部より1 m以上空け、機械上部には物を置かないで下さい。



機械前面

注) 本機は石油系溶剤を使用するため、火気使用場所付近には絶対に据え付けしないで下さい。また直射日光の当たる場所等、液温の上昇する場所も出来るだけ避けて据え付けるようにして下さい。

4) 基礎工事

- a 本機の据え付けは、機械自重による床荷重（下記）に充分耐えられる所で、かつ水平な所であれば特別な基礎工事の必要はなく、簡易基礎にて水平を出し、8本のアンカーボルトにて固定するだけで充分ですが、特に地盤の弱いところは『13項基礎参考図』の基礎図を参照のうえ基礎工事を行って下さい。

床荷重 (4000kg/m²、)

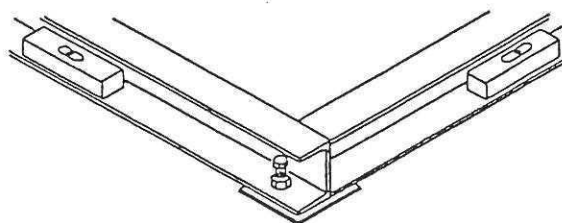
- b 基礎台の周囲を50mm程高くすると共に、1隅に油溜まりを設け、万一溶剤がこぼれた場合でもこの油溜まりに溶剤が集まり、周囲への流出を防ぐと共に、この油溜まりからこぼれた溶剤をくみ出せるようにして下さい。

5) 据付

- a 機械据付箇所の設置面を水平にし、ベットチャンネルに取り付けてある前後6カ所のボルト（M12）の下に付属の鉄板製ライナーをセットし、機械のガタツキをなくして下さい。

必ず図に示す位置に水準器を当て水平を出して下さい。

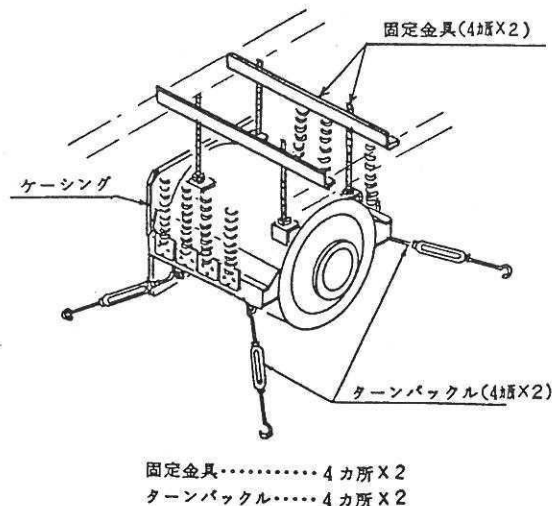
- b 水平の確保、及びガタツキがなくなりましたら、6本のM12ボルトでライナーを少し押しして下さい。この4カ所の部分に少しでもガタツキがあると、脱液回転時に機械本体が振動し、故障の原因となりますので注意して下さい。



注) 設置床面にゴムシートなどの弾性体を敷かないようにして下さい。(ゴムシート等があると逆に振動が増加します。)

6) 輸送止め金具の取り外し

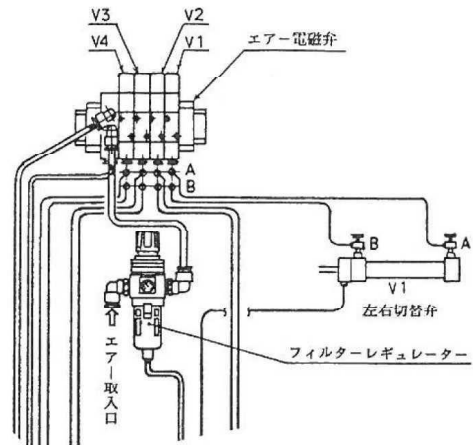
据付が終わりましたら必ずケーシングを固定している8カ所×2ドラムの輸送止め金具を取り外して下さい。輸送止め金具を付けたままで運転したり、輸送止め金具を外した後で機械を移動したりすると、機械が故障する原因となりますので行わないようにして下さい。



2-3 配管工事

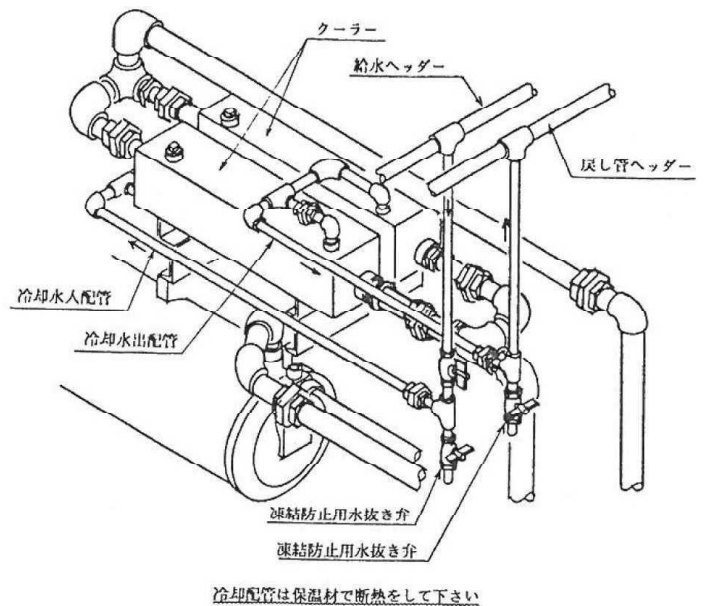
1) エアー配管接続工事

本機は弁駆動用としてエアーが必要です。
エアーの接続は、本体後ろ中央部（右図参照）に接続してください。
接続口径は10φエアーホースです。



2) 冷却水配管工事（オプションでクーラーを取り付けた時）

オプションにてクーラーを取り付けた場合は、冷却水配管工事を右図の要領で行って下さい。
また別置き型のクーラーを取り付けた場合は、冷却水配管工事と溶剤の配管工事が必要です。
工事要領はこの取扱説明書の末尾「クーラー接続要領」の項を参照して下さい。
冷却水は、設定温度マイナス10℃以下の冷却水を供給して下さい。
接続口径は20A(3/4B)です。）



蒸気による加熱は絶対に行わないでください。

2-4 電気工事

電気工事を行う場合、電気工事の資格が必要です。電気工事は専門の業者に依頼して下さい。

1) 電源

電源は、3相200V（駆動用電源）と、単相100V（制御回路用電源）が必要です。

2) 電気配線

- a 電気配線には、3.5mm²(5mを越えた場合は5.5mm²)以上のキャプタイヤ線を使用し、漏電遮断器は「高調波対応型漏電遮断器」(ELCB)(50A定格感度電流60mA以上、)を使用して下さい。

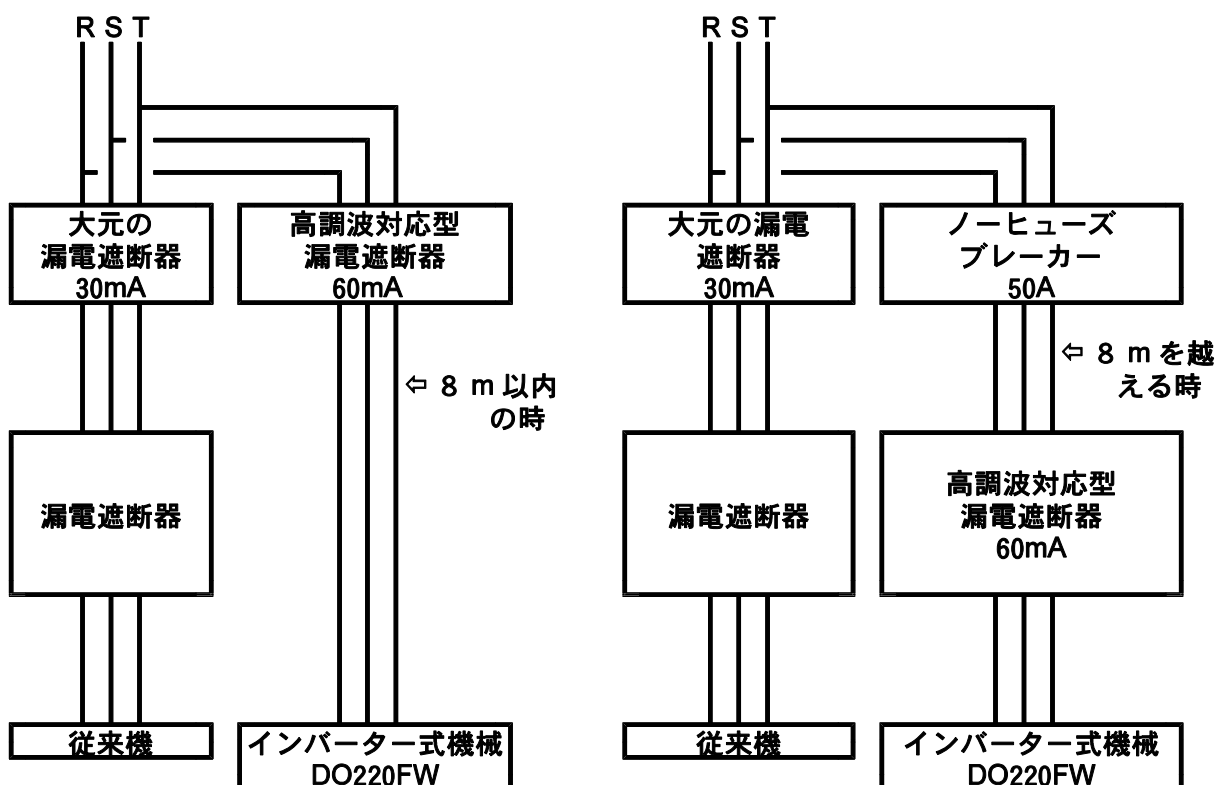
推奨品 富士電機... EW50EAG、三菱電機... NV63-CV、東芝..... LES50G

- b 漏電遮断機(ELCB)と本機との接続は、本体後部より電源接続線として、ゴムキャプタイヤケーブル5.5mm²×4芯)を、2.5m程度出してありますので、この線を利用して下さい。

- c 100V電源は、制御回路に使用されますので10A程度のものがが必要です。家庭用の既設のコンセント又は、コンセント回路から器具を用いて接続して下さい。
100V制御回路電源には、VCケーブル1.25mm²×2芯をリード線として2.5m程度出してありますので、この線を利用して下さい。

- 注1) 力率改善進相コンデンサは絶対に取り付けしないで下さい。
 注2) 漏電遮断器は、必ず高調波対応型を使用してください。普通の漏電遮断器を使用しますと、高周波の漏れ電流により誤動作する場合があります。
 注3) 本機を運転中、大元電源の漏電遮断器が動作する場合は、大元の漏電遮断器を高調波対応型に取り替えるか、本機専用に電源工事を行って下さい。
 注4) 100V回路の漏電遮断器が動作する場合も高調波対応型に取り替えて下さい。
 注5) 高調波対応型に取り替えても漏電遮断器が動作する場合は定格感度電流を100mAのものに取り替えて下さい。

結線図（本機専用に電源工事を行う場合は、下記の要領で行って下さい。）



3) アース工事

キャプタイヤケーブルの4芯の内“緑色”の線は、機械本体に接地してありますので、“緑色”の線を本機単独のD種設置工事（アース）を行って下さい。
 アース棒は、機械に付属されているものを使用して下さい。
 D種接地工事..... 対象機機AC300V以下、接地抵抗100Ω以下、接地線の太さ1.6φ以上

4) 回転方向の確認

本機はインバーター駆動方式ですので、ドラムは電源の相に関係なく右回転から始まります。従って、回転方向の確認は、溶剤循環ポンプの回転方向（矢印）で確認して下さい。
 回転方向が違う場合は、必ず電源側にアース線（緑色の線）を除く線の内、2線を入れ替えて下さい。本機の制御盤内での配線の入替は絶対にしないで下さい。

5) メガテストについて

絶縁抵抗試験（メガテスト）は、行わないで下さい。マイコン、インバーターが破損します。

6) 落雷について

落雷の恐れがある時は、3相200Vの機械元電源（漏電遮断器の元電源）を切り100Vのコンセントを抜いて下さい。マイコン、インバーターが破損する事があります。

2-5 溶剤の取扱 及び 溶剤投入について

1) 取扱に関する注意事項

本機は少量危険物取扱規制対象商品です。所定の届け出手続きを行い、その取扱に当たっては、必ず所轄消防署の指示に従って下さい。

本機に使用する溶剤は引火性があります。その使用方法を誤りますと、火災や爆発のを招く恐れがあります。よって本取扱説明書の、始めに綴じてある「注意書」に記載されている事項を、よく守って取扱をして下さい。届出義務を怠ったり、誤った使用法などにより生じた事故の時は、メーカーとしての責任は負いません。

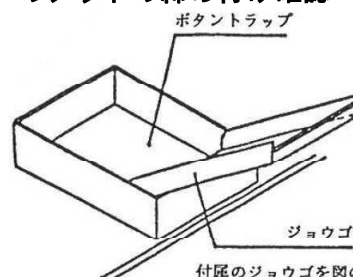
2) 溶剤投入

機械に溶剤投入をする場合は、下記の事項を確認の上、次の要領で投入して下さい。入れすぎると、溶剤タンクよりこぼれますので注意して下さい。

確認事項

- 1) カートリッジフィルターのエレメントの装着確認、及びフタのナットの締め付け確認
- 2) カーボンタンクのカーボンの装着確認、及びフタのナットの締め付け確認

- a 機械下部の扉を開き、ベースタンクのポタントラップフタを取り、この口よりベースタンクに溶剤（400ℓ）を投入します。



- b ポンプの給液栓を開けて、ポンプの中に溶剤を一杯入れます。溶剤を補給した後、給液栓は必ず締めて下さい。締めないでポンプを回すと、溶剤が溢れ出ますので、注意して下さい。ポンプ内に呼び液を入れるのは、初回のみでその後は必要ありません。

- c 3相200Vの元電源を入れて下さい。

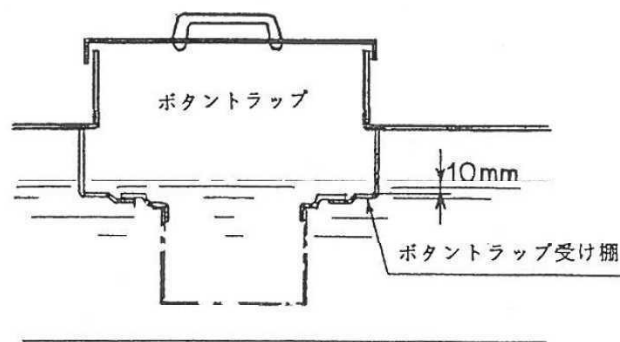
- d 操作パネルの「電源」を[ON]、[ポンプ]を[ON]し、溶剤をカートリッジケース、カーボンタンクに充填します。充填完了は、サイトグラスに溶剤が通過すると完了です。この時ポンプの回転方向を確認して下さい。ポンプの回転方向は、ポンプに表示されています。



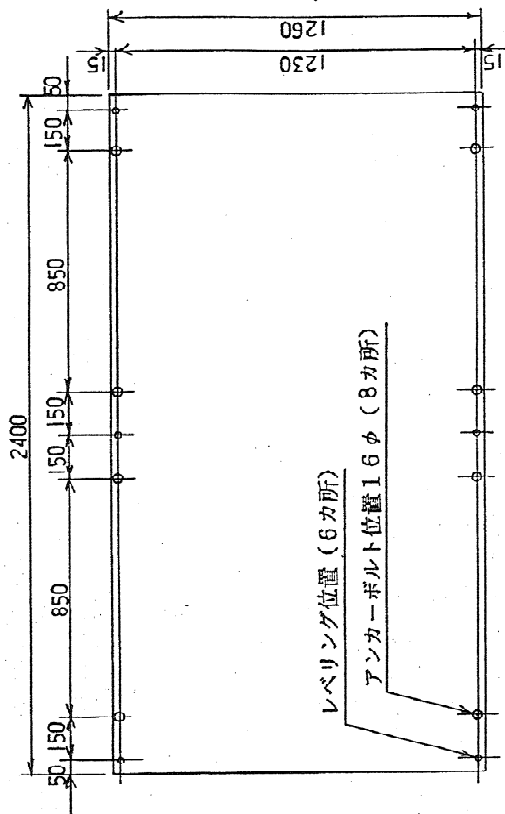
2～3分経過しても、溶剤が通過しない場合は、再度ポンプに溶剤を追加して下さい。

[注意]ポンプ内に呼び液が入っていないと、メカニカルシールが焼損しますので注意して下さい。

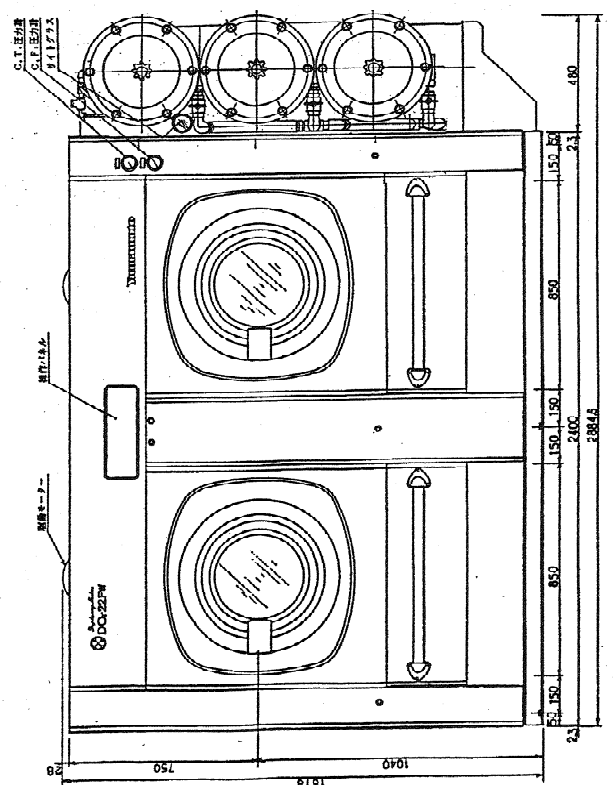
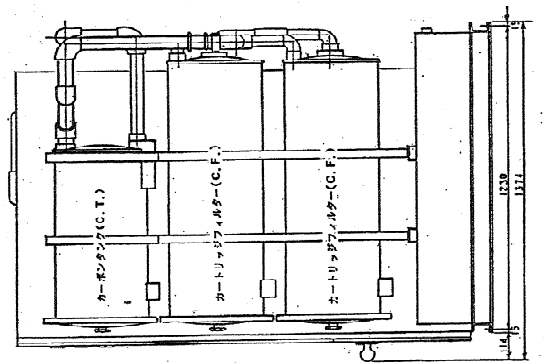
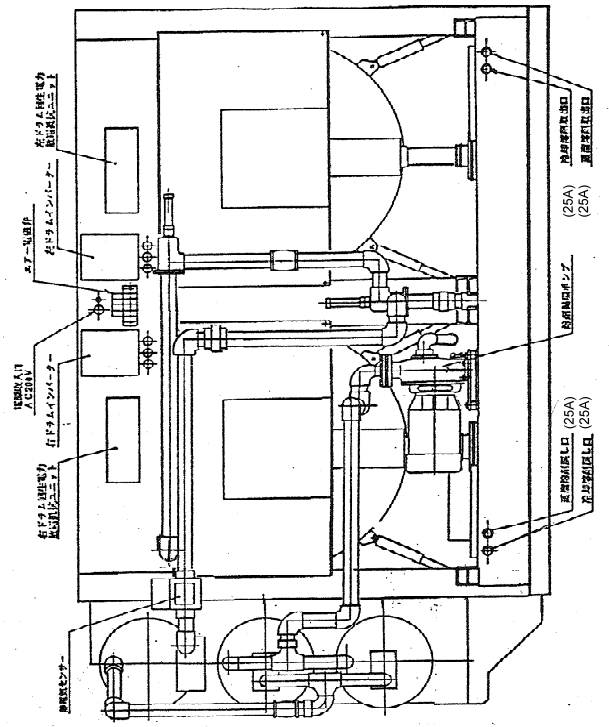
- e サイトグラスに溶剤が通過後、1分程してポンプを[OFF]にします。
- f 右図のポタントラップ受け棚より10mm 上まで溶剤を補給します。これ以上溶剤を入れますと、停止中に溶剤クーラーより溶剤が落ちてきて、溶剤がタンクよりこぼれますので、絶対に入れないで下さい。
溶剤の補給は、使用者に注意するように指導をして下さい。
以上でベースタンクへの液入れは終了です。



3 機械の外観図

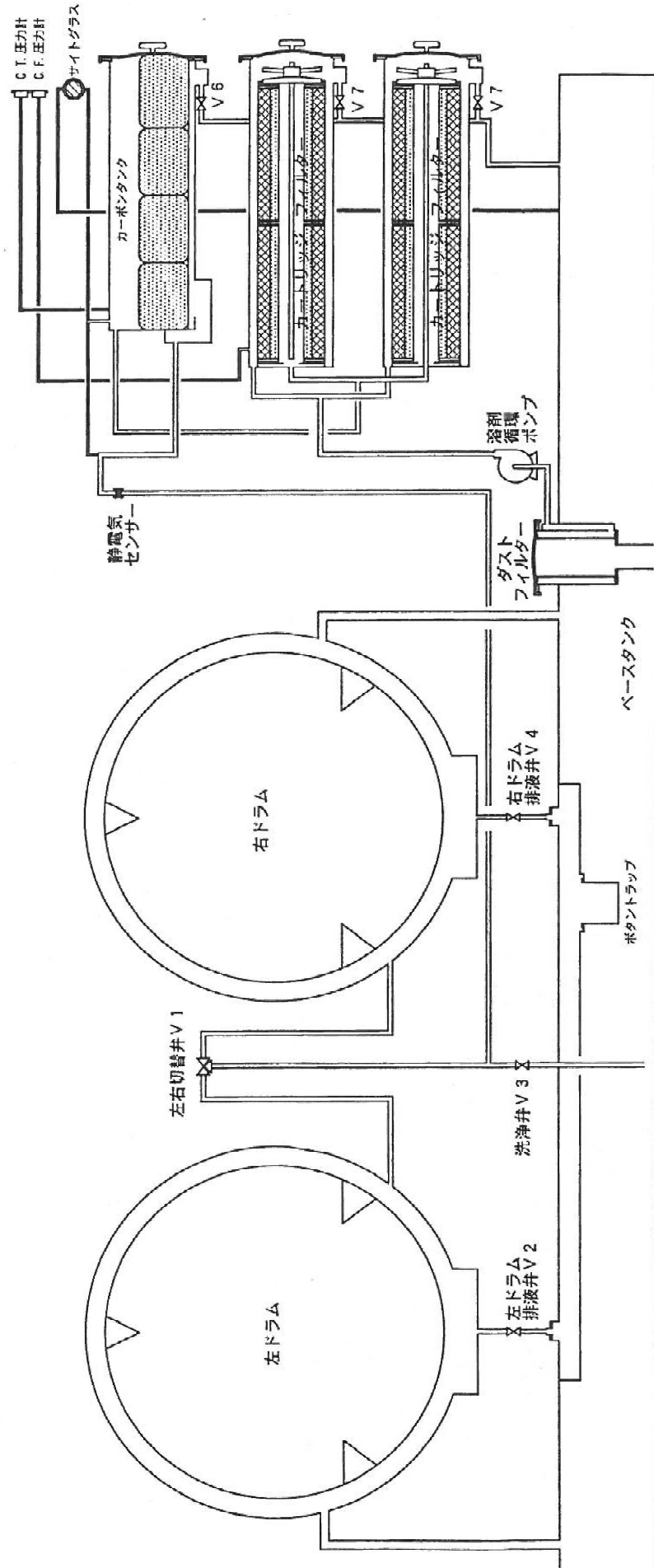


アンカーボルト位置



4 配管フローシート

4-1 外圧フィルタータイプ配管フローシート

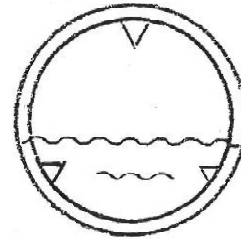


5 洗浄方式及び0秒設定時の各行程の動き

5-1 各洗浄方式の説明

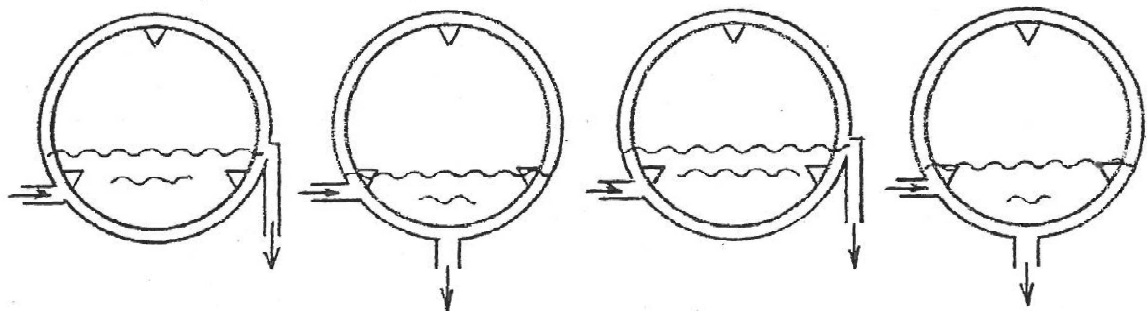
1) バッチ洗浄

ベースタンクよりフィルター経由で、液をドラム内に入れ、規定の時間に達すると給液が止まり、溜洗いをします。汚れがひどい場合に、ドラム内のソープ濃度を増やして、洗浄する場合に使用します。洗浄時間は2～3分とします。給液時間(60秒)



2) アップダウン洗浄

ベースタンクより溶剤を、フィルター経由でドラム内に入れ、オーバーフロー洗浄を行った後給液状態のまま排水弁を開き、ドラム内の汚れた液を排出しながら洗浄を行います。[オーバーフロー洗浄] → [給排液洗浄] → [オーバーフロー洗浄] → [給排液洗浄]を設定時間内繰り返して洗う洗い方です。ドラム内の汚れた溶剤がすぐに排出されますので、二時汚染の少ない洗い方です。洗浄時間は3～4分とします。



オーバーフロー洗浄
(排水弁閉)

60秒

給排液洗浄
(排水弁開)

給液を継続したまま排水弁が開き
ドラム内の汚れた液を排出しながら
洗浄を行う

30秒

オーバーフロー洗浄
(排水弁閉)

60秒

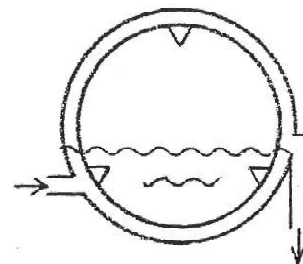
給排液洗浄
(排水弁開)

給液を継続したまま排水弁が開き
ドラム内の汚れた液を排出しながら
洗浄を行う

30秒

3) オーバーフロー洗浄

ベースタンクより溶剤を、フィルター経由でドラム内に入れ、定液位に達するとオーバーフローさせ、ベースタンクに溶剤を戻しながら洗浄します。一般的な洗い方で、洗浄時間は10～15分とします。



洗浄方式は前記の3通りとなりますが、洗浄回転数の組み合わせによって下記の洗浄方式が選べます。

1) 強洗浄 (ランプL 2又はL 7点灯時)

ドラムが35rpmで正逆転しながら洗浄を行う洗い方です。バッチ、アップダウン、オーバーフローともに35rpm回転となります。標準の洗浄方式です。

2) 弱洗浄 (ランプL 3又はL 8点灯時)

ドラムが25rpmで正逆転しながら洗浄を行う洗い方です。バッチ、アップダウン、オーバーフローともに25rpm回転となります。

きつい洗いを必要としないときに使用します。

3) 強・ソフト洗浄 (S 9左上ランプとL 2又はL 7点灯時)

ドラム回転数は35rpmで洗浄を行います。

通常のドラムの洗浄回転時間は、8秒正転、4秒停止、8秒逆転、4秒停止の繰り返しで洗浄されていますが、この洗浄モードにしますと、ドラムの洗浄回転時間が4秒正転、8秒停止、4秒逆転、8秒停止の繰り返しで洗浄するようになります。弱洗浄よりも弱い洗いを必要とするときに使用します。

4) 弱・ソフト洗浄 (S 9左上ランプとL 3又はL 8点灯時)

ドラム回転数は25rpmで洗浄を行います。

通常のドラムの洗浄回転時間は、8秒正転、4秒停止、8秒逆転、4秒停止の繰り返しで洗浄されていますが、この洗浄モードにしますと、ドラムの洗浄回転時間が4秒正転、8秒停止、4秒逆転、8秒停止の繰り返しで洗浄するようになります。強浸し洗浄よりもさらに弱い洗いを必要とするときに使用します。

5-2 タイマーを0秒に設定した時の各行程の動き

1) バッチ行程、アップダウン行程

バッチ行程・・・0秒設定可能 (行程時間が0秒となり給液60秒、シャワー時間20秒、合計80秒の行程は行います。)

アップダウン行程・・・・・・設定出来ません

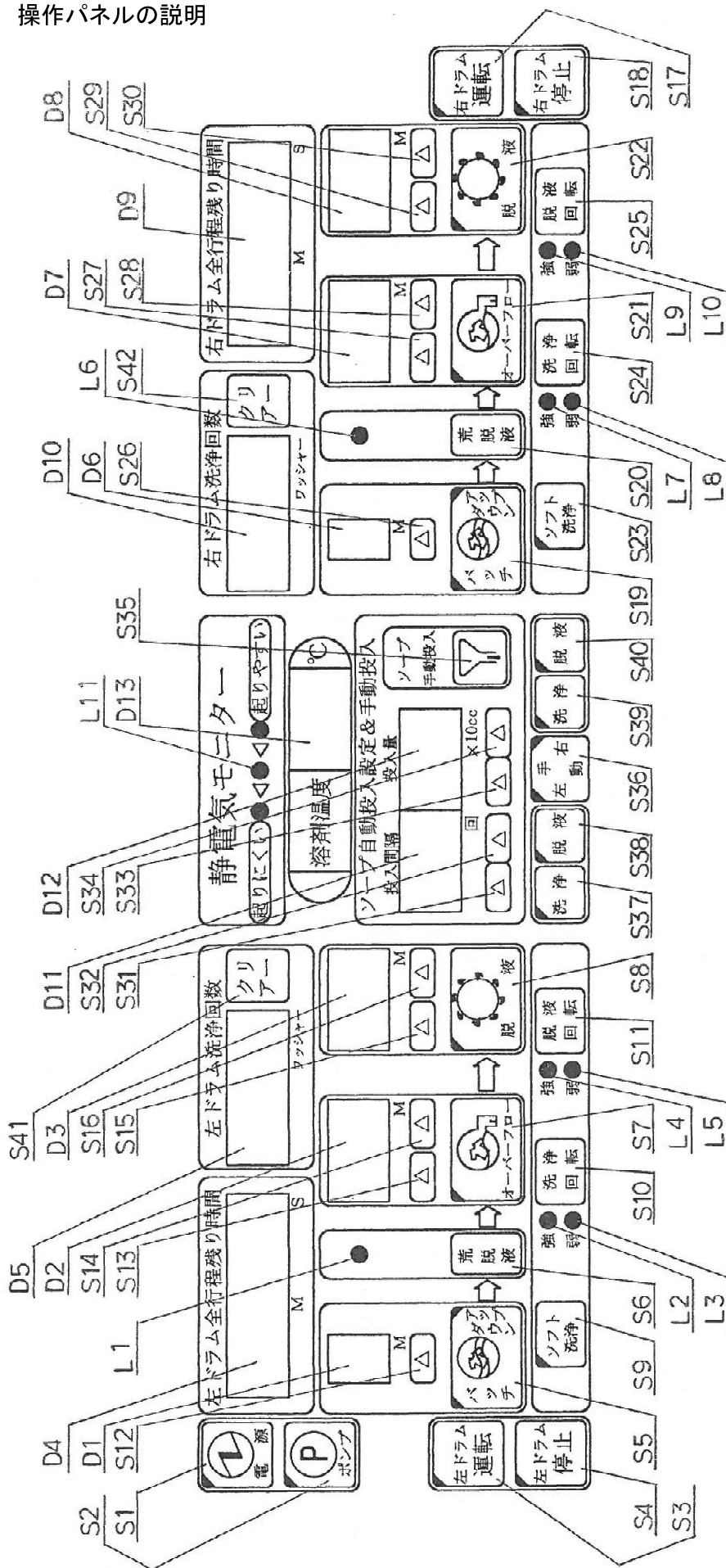
2) オーバーフロー行程・・・・・・設定出来ません

3) 脱液行程・・・・・・設定可能

バランス時間40秒、中速脱液60秒、合計100秒の運転時間になります。

6 操作パネルの説明及び、静電気センサーの説明

6-1 操作パネルの説明



- S 1・電源ボタン・・・・・・・・・・電源の『ON』『OFF』を行うスイッチです
- S 2・ポンプボタン・・・・・・・・・・ポンプの『ON』『OFF』を行うスイッチです
- S 3・左ドラム運転ボタン・・・・・・・・『ON』すると左ドラムの運転が開始します
- S 4・左ドラム停止ボタン・・・・・・・・『ON』すると左ドラムが停止します
- S 5・左ドラムバッチ・アップダウン行程ボタン・・・・・・・・バッチかアップダウン行程を選択するスイッチです
- S 6・左ドラム荒脱水ボタン・・・・・・・・荒脱水を『行う』『行わない』を決めるスイッチです
- S 7・左ドラムオーバーフロー行程ボタン・・・・・・・・オーバーフロー行程を選択するスイッチです
- S 8・左ドラム脱液行程ボタン・・・・・・・・脱液行程を選択するスイッチです
- S 9・左ドラムソフト洗浄ボタン・・ソフト洗浄を『行う』『行わない』を決めるスイッチです
- S 10・左ドラム洗浄回転設定ボタン・・洗浄時のドラム回転を設定するスイッチです
- S 11・左ドラム脱液回転設定ボタン・・脱液時のドラム回転を設定するスイッチです
- S 12・左ドラムバッチ・アップダウン洗浄時間設定ボタン・・バッチ・アップダウン洗浄時間を設定するスイッチです
- S 13・左ドラムオーバーフロー洗浄時間設定ボタン・・オーバーフロー洗浄時間を設定するスイッチです
- S 14・左ドラムオーバーフロー洗浄時間設定ボタン・・オーバーフロー洗浄時間を設定するスイッチです
- S 15・左ドラム脱液時間設定ボタン・・脱液時間を設定するスイッチです
- S 16・左ドラム脱液時間設定ボタン・・脱液時間を設定するスイッチです
- S 17・右ドラム運転ボタン・・・・・・・・『ON』すると右ドラムの運転が開始します
- S 18・右ドラム停止ボタン・・・・・・・・『ON』すると右ドラムが停止します
- S 19・右ドラムバッチ・アップダウン行程ボタン・・・・・・・・バッチかアップダウン行程を選択するスイッチです
- S 20・右ドラム荒脱水ボタン・・・・・・・・荒脱水を『行う』『行わない』を決めるスイッチです
- S 21・右ドラムオーバーフロー行程ボタン・・・・・・・・オーバーフロー行程を選択するスイッチです
- S 22・右ドラム脱液行程ボタン・・・・・・・・脱液行程を選択するスイッチです
- S 23・右ドラムソフト洗浄ボタン・・ソフト洗浄を『行う』『行わない』を決めるスイッチです
- S 24・右ドラム洗浄回転設定ボタン・・洗浄時のドラム回転を設定するスイッチです
- S 25・右ドラム脱液回転設定ボタン・・脱液時のドラム回転を設定するスイッチです
- S 26・右ドラムバッチ・アップダウン洗浄時間設定ボタン・・バッチ・アップダウン洗浄時間を設定するスイッチです
- S 27・右ドラムオーバーフロー洗浄時間設定ボタン・・オーバーフロー洗浄時間を設定するスイッチです
- S 28・右ドラムオーバーフロー洗浄時間設定ボタン・・オーバーフロー洗浄時間を設定するスイッチです
- S 29・右ドラム脱液時間設定ボタン・・脱液時間を設定するスイッチです
- S 30・右ドラム脱液時間設定ボタン・・脱液時間を設定するスイッチです
- S 31・ソープ投入間隔設定ボタン・何ワッシャー毎に投入するかを設定するスイッチです
- S 32・ソープ投入間隔設定ボタン・何ワッシャー毎に投入するかを設定するスイッチです
- S 33・ソープ投入量設定ボタン・・ソープの投入量を設定するスイッチです
- S 34・ソープ投入量設定ボタン・・ソープの投入量を設定するスイッチです
- S 35・ソープ手動投入ボタン・・・・・・・・押している時間ソープを手動で投入する事ができます
- S 36・手動・自動モード切替ボタン・押す毎に[左ドラム手動モード]→[右ドラム手動モード]→
[自動モード]の順に切り替わります
- S 37・左ドラム手動洗浄ボタン・・・・・・・・左ドラム手動モード時に押すと左ドラム洗浄行程を行います
- S 38・左ドラム手動脱液ボタン・・・・・・・・左ドラム手動モード時に押すと左ドラム脱液行程を行います
- S 39・右ドラム手動洗浄ボタン・・・・・・・・右ドラム手動モード時に押すと右ドラム洗浄行程を行います

- S 40・右ドラム-手動脱液ボタン・・・右ドラム手動モード時に押すと右ドラム脱液行程を行います
- S 41・左ドラム-洗浄回数クリアボタン・・・[クリアー] S 4 1 を押したまま [左ドラム運転] S 3 を押すと左ドラム洗浄回数が 0 になります
- S 42・右ドラム-洗浄回数クリアボタン・・・[クリアー] S 4 2 を押したまま [右ドラム運転] S 17 を押すと右ドラム洗浄回数が 0 になります
-
- L 1・左ドラム-荒液表示ランプ・・・左ドラム荒脱液行程が設定された時に点灯します
- L 2・左ドラム-強洗浄表示ランプ・・・左ドラム強洗浄行程が設定された時に点灯します
- L 3・左ドラム-弱洗浄表示ランプ・・・左ドラム弱洗浄行程が設定された時に点灯します
- L 4・左ドラム-強脱液表示ランプ・・・左ドラム強脱液行程が設定された時に点灯します
- L 5・左ドラム-弱脱液表示ランプ・・・左ドラム弱脱液行程が設定された時に点灯します
- L 6・右ドラム-荒液表示ランプ・・・右ドラム荒脱液行程が設定された時に点灯します
- L 7・右ドラム-強洗浄表示ランプ・・・右ドラム強洗浄行程が設定された時に点灯します
- L 8・右ドラム-弱洗浄表示ランプ・・・右ドラム弱洗浄行程が設定された時に点灯します
- L 9・右ドラム-強脱液表示ランプ・・・右ドラム強脱液行程が設定された時に点灯します
- L 10・右ドラム-弱脱液表示ランプ・・・右ドラム弱脱液行程が設定された時に点灯します
- L 11・静電気モニター表示ランプ・静電気が『起りやすい』か『起りにくい』かを表示します
-
- D 1・左ドラム-バッチ・アップダウン時間表示デジタル・・・左ドラムのバッチ・アップダウン洗浄時間及び残り時間を表示します
- D 2・左ドラム-オーバーフロー時間表示デジタル・・・左ドラムのオーバーフロー洗浄時間及び残り時間を表示します
- D 3・左ドラム-脱液時間表示デジタル・・・左ドラムの脱液時間及び残り時間を表示します
- D 4・左ドラム-全行程残り時間表示デジタル・・・左ドラムの全行程残り時間を表示します
- D 5・左ドラム-洗浄回数表示デジタル・・・左ドラムの洗浄回数を表示します
- D 6・右ドラム-バッチ・アップダウン時間表示デジタル・・・右ドラムのバッチ・アップダウン洗浄時間及び残り時間を表示します
- D 7・右ドラム-オーバーフロー時間表示デジタル・・・右ドラムのオーバーフロー洗浄時間及び残り時間を表示します
- D 8・右ドラム-脱液時間表示デジタル・・・右ドラムの脱液時間及び残り時間を表示します
- D 9・右ドラム-全行程残り時間表示デジタル・・・左ドラムの全行程残り時間を表示します
- D 10・右ドラム-洗浄回数表示デジタル・・・左ドラムの洗浄回数を表示します
- D 11・ソープ投入間隔表示デジタル・・・ソープを何ワッシャー毎に投入するかの設定値を表示します(毎回投入する場合は [0 1] の表示にする)
- D 12・ソープ投入量表示デジタル・・・ソープの投入量の設定値が表示されます。又、ソープ手動投入ボタン (S 3 5) が押されている間、投入された投入量が刻々表示されます
- D 13・溶剤温度表示デジタル・・・溶剤温度が表示されます

6-2 静電気センサーの説明

本機には、洗浄中の衣類に静電気が『起りやすい』か『起りにくい』かを判断する静電気センサーが内蔵されています。このセンサーは溶剤の体積抵抗率（電気が流れる度合い）を測定し、電気が流れにくい場合は『起りやすい』流れやすい場合は『起りにくい』の所のランプが点灯します。

一般に物質は電氣的に中性の状態を保っていますが、二つの物体間の接触、剥離により静電気が発生します。この静電気が電気が流れにくい溶剤中で発生した場合、静電気が帯電（蓄積）をし、一定の帯電量まで蓄積すると空中放電（スパーク）をし、それが引火源となって溶剤に引火し、爆発を起こすことがあります。また静電気が電気が流れやすい溶剤中では、発生した静電気が流れ（アースされる）て危険な帯電をしないことが分かっています。

溶剤の体積抵抗率と静電気の帯電状態の関係及び静電気センサーのモニターのランプとの関係は下表のようになっています。

体積抵抗率	10 ⁷	10 ⁸	10 ⁹	10 ¹⁰	10 ¹¹	10 ¹²	10 ¹³	10 ¹⁴	10 ¹⁵	10 ¹⁶	10 ¹⁷ (Ω-Cm)	
	半導電性液体			絶縁性液体								
	危険な帯電を生じさせない物質			帯電する可能性のある物質	強く帯電する可能性のある物質				非常に強く帯電する物質			
静電気モニターランプ	起りにくい			中央	起りやすい							

従って、衣類の洗浄は必ず静電気モニターランプが『起りにくい』の側に点灯している状態で使用して下さい。

⚠ 危険

静電気のモニターランプが『中央』もしくは『起りやすい』に点灯している状態使用しますと、静電気により火災や爆発が起きる可能性が高くなります。
必ずモニターランプが『起りにくい』に点灯している状態で使用してください。
◆『中央』のランプは『起りやすい』を表示する前に、ソープを加えて戴くために便宜上設けたものです。従って『中央』を表示したら、直ちにソープを加えて『起りにくい』を表示するようにして下さい。

静電気センサーのセンサー部が汚れますと、正確な測定ができなくなりますので半年に一度、12-2項「静電気センサーの構造と点検」に従ってセンサー部の掃除を行って下さい。

静電気モニターランプの点灯は、ポンプを『ON』してから約2分後に点灯します。尚、安全確保のため『起りやすい』に点灯した場合、機械はモニターランプが『中央』若しくは『起りにくい』が点灯するまで動かなくなります。

注意！：一度『起りやすい』に点灯すると、『中央』『起りにくい』にランプが移っても『起りやすい』のランプは『起りやすい』に点灯したことを知らせる為、点滅をしながら点灯した状態になりますが、『運転』ボタンを押すと点滅は消えます。

7 運転の方法

7-1 行程の変更方法（標準行程はオールクリアー（7-4項参照）をすると表示されます。）
機械停止中しか行えません。

- 1) 元電源（3相200V）を入れます。
- 2) [電源] S1ボタンを押します。
（初回は標準行程が表示され、その後は電源を切る前の行程が表示されます。）

左右ドラム共に設定方法は同じです。設定説明は左ドラムで行います。

- 3) 変更したい所（行程、時間、洗浄、脱液回転）をダイレクトに変更して下さい。

☆行程を変更する場合

- [バッチ] [アップダウン] [パス] の切替 ⇒ S 5 ボタンを押す毎に順次切り替わる
- [荒脱水] [パス] の切替 ⇒ S 6 ボタンを押す毎に『入』『切』が切り替わる
- [オーバーフロー] の切替 ⇒ S 7 ボタンを押す毎に『入』『切』が切り替わる
- [脱液] の切替 ⇒ S 8 ボタンを押す毎に『入』『切』が切り替わる

☆時間を変更する場合

- [バッチ] [アップダウン] 時間の変更 ⇒ S 2 ボタンで変更（0～9分迄設定可能）
但し0分設定はバッチ行程のみ
- [オーバーフロー] 時間の変更 ⇒ S 13, S 14 ボタンで変更（1～99分設定可能）
- [脱液] 時間の変更 ⇒ S 15, S 16 ボタンで変更（1～99分設定可能）
- 注意 1) 全行程の合計時間が99分を越えると設定できません。（Er04を表示）
- 2) 行程が『ON』になっていない行程の時間は設定できません。

☆洗浄方法の変更

- [ソフト洗浄] をする変更 ⇒ S 9 ボタンを押す毎に『入』『切』が切り替わる

☆洗浄回転数の変更

- [洗浄回転] を変更する変更 ⇒ S 10 ボタンを押す毎に『強』『弱』が切り替わる

☆脱液回転数の変更

- [脱液回転] を変更する変更 ⇒ S11 ボタンを押す毎に『強』『弱』が切り替わる

- § 変更する順序はありません。変えたい箇所をダイレクトに変更することができます。
変更したパネル表示内容は、電源を切っても記憶されています。
- § 電源を入れた時のパネル表示内容は、電源を切る前の内容が表示されます。
- § 左右ドラムのパネル設定は独立した設定が可能です。

7-2 ソープ自動投入設定の仕方（機械停止中にしか行えません）

この項目で設定した内容は左右ドラム共通の設定となります。

1) 投入間隔の設定（何ワッシャー毎に投入するかを設定）

S 31, S 32 ボタンで設定します。（0～9 ワッシャーまで設定可能）
（0設定はパス（投入なし）となります。）

例・ ・ 毎回投入する時 [01] に設定
3 ワッシャー毎に投入する時 . . . [03] に設定

2) 投入量の設定

S 33, S 34 ボタンで設定します。（設定は10cc単位での設定になりますので注意して下さい）

例・ ・ 30cc投入する時 [03] に設定
（[30] に設定すると300ccの投入になるので注意して下さい）
60cc投入するとき [06] に設定

7-3 その他の操作方法

- 1) ポンプを作動させる [ポンプ] S 2 ボタンを押す。
- 2) ポンプを停止させる [ポンプ] S 2 ボタンを押す。
- 3) 機械を運転する・左ドラムの運転・ [左ドラム運転] S 3 ボタンを押す。
右ドラムの運転・ [右ドラム運転] S 17 ボタンを押す。
- 4) 機械を停止する・左ドラムの停止・ [左ドラム停止] S 4 ボタンを押す。
右ドラムの停止・ [右ドラム停止] S 18 ボタンを押す。

◎緊急時の停止 ・ [電源] S 1 ボタンを押す。

- 5) ソープを手動で投入する [ソープ手動投入] S 35ボタンを押す。

自動モードで機械停止中・左ドラムに投入されます。

自動モードで機械運転中・運転中のドラムに投入。

手動モードの時 [手動] S 36 のランプが点灯している側に投入。

- 6) 洗浄回数を [0] にする
 - 左ドラムのクリアー . . . [クリアー] S 41 を押したまま [左ドラム運転] S 3 を押す。
 - 右ドラムのクリアー . . . [クリアー] S 42 を押したまま [右ドラム運転] S 17 を押す。
 - 7) オールクリアーの仕方 マイコンが暴走した時に行ってください。
(オールクリアーを行うとパネルの設定は初期設定の状態となります。)
- a) [電源] S 1 ボタンを押す . . 電源を切る (電源が入っていない時はそのまま)
 - b) [S 14] [S 16] 二つのボタンを押したまま [電源] S 1 ボタンを押す。
 - c) パネルにランプが点灯したら手を離す。

7-4 自動運転の仕方

- 1) [電源] S 1 ボタンを『ON』する。
- 2) [ポンプ] S 2 を『ON』する。
- 3) パネルの内容を変更する場合は 7-1 項、7-2 項の要領で変更する。
- 4) 衣類を左のドラムに入れ蓋を確実に閉じる。
静電気モニターのランプが『起りにくい』に点灯しているのを確認する。
- 5) [左ドラム運転] S 3 ボタンを押す。 . . 設定した内容で運転が始まる。
- 6) 連続して右ドラムで洗浄を行う場合は、右ドラムに衣類を入れて、蓋を閉じる。
- 7) [右ドラム運転] S17ボタンを押す。 . . 左ドラムが洗浄中の場合はそのまま待機し、左ドラムが脱液行程に入ると同時に、右ドラムが。設定した内容で運転が始まる。
- 8) 左ドラムの運転が終わると自動停止をします。衣類を入れ替えて [運転] S 3 ボタンを押しておく、右ドラムが脱液行程に入ると同時に洗浄運転を開始する。
この操作を繰り返し行うことで、連続して洗浄を行うことができます。
最初に洗浄するドラムは、左右どちらからスタートしてもかまいません。

- 注 1) 両方のドラムで同時に洗浄又は、脱液を行うことはできません。
- 2) 左右どちらのドラムからでも運転する事ができます。又、片方のドラムのみで連続して洗浄を行うこともできますが、ドラムが自動停止してから行って下さい。
 - 3) 左側のドラムの脱液行程が終わらないうちに、右側のドラムの洗浄行程が終わった場合はそのまま待機し、左側のドラムの脱液行程が終わると同時に右側のドラムの脱液行程が開始します。ドラムが逆の場合も同様の動きとなります。
 - 4) 上記注3) の状態で、左側のドラムが脱液中に [左ドラム停止] S 4 ボタンを押した場合や、蓋が開いた場合、左側ドラムは行程が終了したと見なし、右側ドラムの脱液行程が開始します。
洗浄中の場合も同様に、待機中のドラムが運転を開始します。

- 8) 蓋の開閉は、停止ランプが点灯している事を必ず確認して行ってください。
- 9) 静電気モニターのランプは下記の条件となります。
- 起動時のランプの点灯 [ポンプ] S 2 『ON』 後2~3分して点灯します。
- 機械停止中に

『起りやすい』に点灯した時・自動運転出来ません。(手動運転は可能)

自動運転中に

『起りやすい』に点灯した時・洗浄中は運転を即中止。

脱液行程中は最後まで脱液行程を行ってから停止。

注) 『起りやすい』に点灯すると同時に、[SOAP]の文字が表示されます。

『起りやすい』に点灯した時は、その後に『中央』『起りにくい』にランプが移っても『起りやすい』のランプは、確認のため[運転]ボタンが押されるまで点滅状態で点灯します。

『起りやすい』に点灯した時、又は『起りやすい』のランプが点滅している時は、原因を確かめ『起りにくい』にランプが点灯してから運転を再開して下さい。

『中央』のランプは『起りやすい』を表示する前に、ソープもしくは帯電防止剤を加えて戴くため、便宜上設けたものです。従って『中央』を表示したら、直ちにソープもしくは帯電防止剤を加えて『起りにくい』を表示するようにして下さい。

- 10) 溶剤温度が36° C以上を表示した時・35° C以下になる迄警告音がなり続けます。

7-5 手動運転の仕方

- 1) [手動] S 36 ボタンを押す 手動運転する側のドラム側のランプを点灯させる
[手動] S 36 ボタンを押す毎に . . . 手動運転モード (左ドラム) →手動運転モード
(右ドラム) →自動運転モードの順に切り替わる。
- 2) 運転する場合
 - [洗浄] S 37 ボタンを押す 左ドラムの洗浄行程が始まる。(切るまで運転)
 - [脱液] S 38 ボタンを押す 左ドラムの脱液行程が始まる。(脱液時間は自動行程の設定時間自動運転して終了します)
 - [洗浄] S 39 ボタンを押す 右ドラムの洗浄行程が始まる。(切るまで運転)
 - [脱液] S 40 ボタンを押す 右ドラムの脱液行程が始まる。(脱液時間は自動行程の設定時間自動運転して終了します)
- 3) 止める場合 『ON』しているボタンをもう一度押す。

注 1) 各ボタンの操作は、ドラムが停止していることを確認して行って下さい。

2) [洗浄] S37、[脱液] S38 [洗浄] S39. [脱液] S40のボタンは、必ず一つずつ操作して下さい。

両方同時に運転することはできません。

3) 手動モード→自動モードの切り替えは、運転中は出来ません。

8 外圧式カートリッジフィルターの取り扱い

8-1 カートリッジフィルターの仕様

エレメント..... 外圧式粒状カーボン、アルミナ入りペーパーフィルター
寸 法..... 330φX470LX 4本

8-2 交換時期の目安

カートリッジフィルター圧力(C.F.)からカーボンタンク圧力(C.T.)を引いた差圧が下記の値を超える時

(C.F.) - (C.T.) = 0.1 ~ 0.12 MPa

又は、酸価値が0.5を超える時

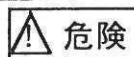
※フィルタとカーボン交換時は約0.02MPa

(使用されるフィルタやカーボンにより異なる)

両方の圧が高い場合は、カーボンの詰め過ぎの可能性がります。

8-3 エレメントの交換手順

a) フィルター液落としバルブを開け、フィルターの液を落として下さい。



危険 ベースタンク溶剂量に注意！

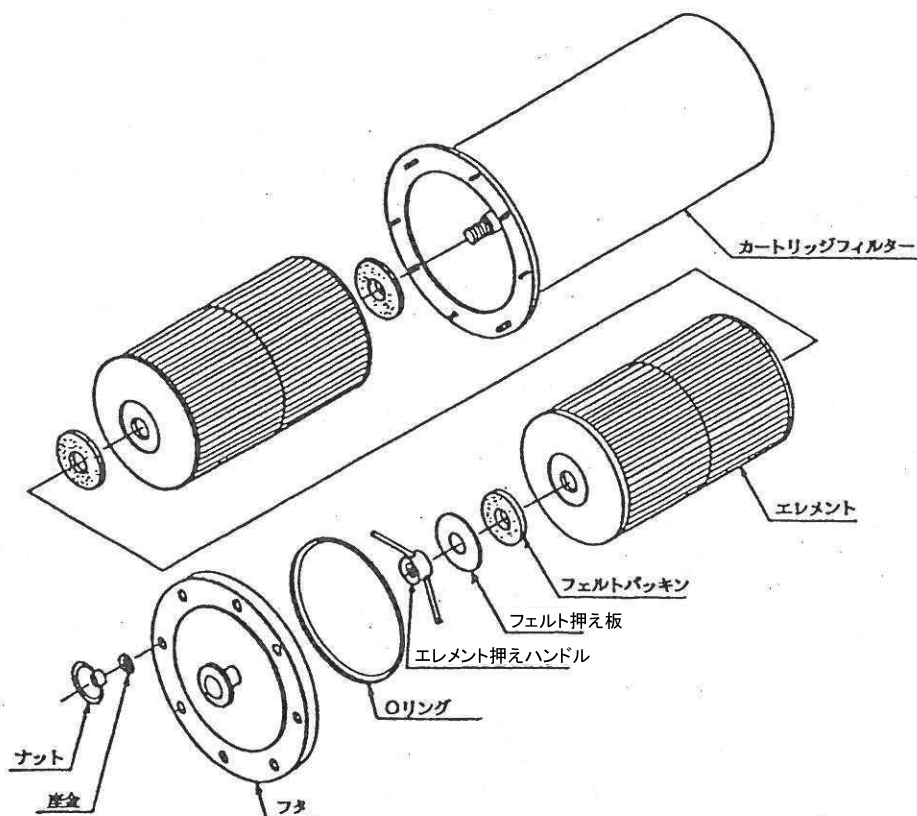
ベースタンクの溶剂量が、ベースタンクの液位表示箇所以下であることを確認。

b) フィルター液落としバルブ開けてから、必ず1時間以上経過してナットを緩めてフタを開けます。

c) エレメント押えハンドルのナットを緩めて外し、フェルト押え板を外します。

d) エレメントを手前に引き出します。

e) エレメントを交換し、逆の手順でセットします。



9 カーボンタンクの取り扱い

9-1 カーボンタンクの仕様

使用カーボン... 粒状カーボン（脱酸剤入り）
使用量..... 内圧式・320φ×300H×3本（カートリッジタイプ）54ℓ
 外圧式・40ℓ（10ℓ×4袋）


9-2 交換時期の目安

酸価値..... 0.5以上になった時
目視状況..... 溶剤が着色し始めた時

上記のいずれかの状況になった時は、速やかに交換を行って下さい。

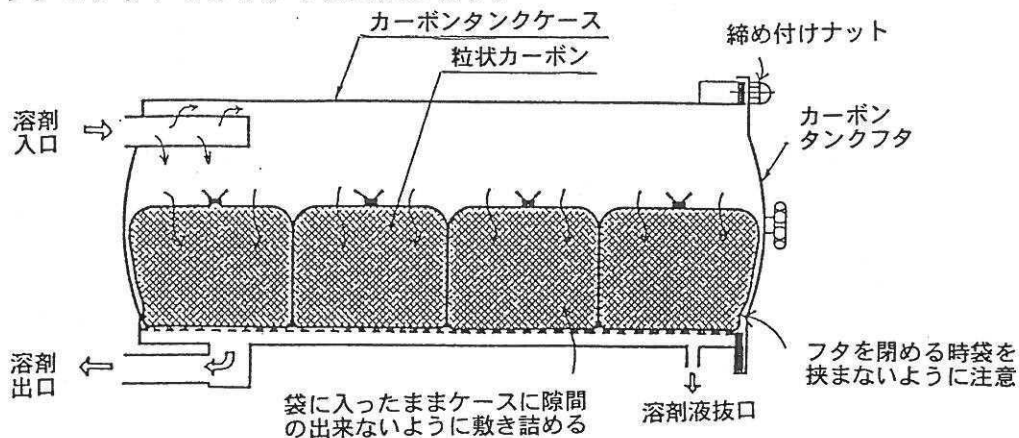
9-3 交換手順

- a) カーボンタンク液落としバルブを開け、カーボンタンクの液を落として下さい。

 危険	ベースタンク溶剤量に注意！ ベースタンクの溶剤量が、ベースタンクの液位表示箇所以下であることを確認。
---	--

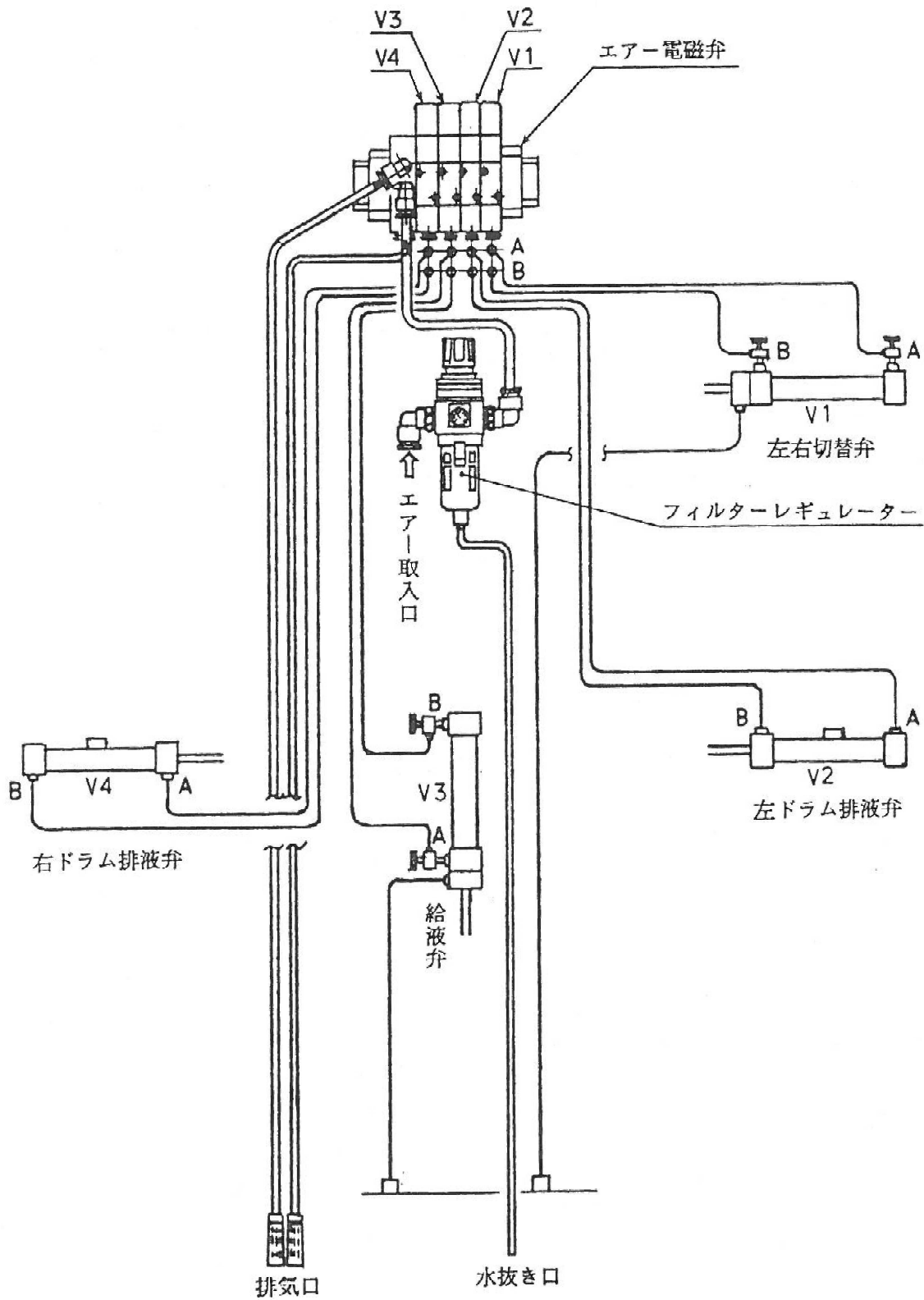
（外圧式）

- b) カーボンタンク液落としバルブ開けてから、必ず1時間以上経過してナットを緩めてフタを開けます。
c) カーボンの袋を取り出し、新しいカーボン40ℓ（10ℓ×4袋）をセットします。この時下図のように、隙間が出来ないようにカーボンを敷き詰めます。
d) カーボンの袋を挟まないように注意し、フタを締めます。
e) フタをナットでしっかりと固定します。



10 各機器の点検調整

10-1 エア配管系統図



10-2 各エア―機器の構造及び点検

1) フィルタ、レギュレータ

a フィルタ

エア―の取入口に取り付けられている機器で、エア―中のごみを除去したり、水分を除去する機器です。

本機に取り付けられているフィルタは、水分自動排出装置が内蔵されていますので、機器に溜まった水分を抜き取る必要はありませんが、機器から水を抜くドレン排出口のホースが機械中央部にありますので、水が垂れると困る場合は、容器で受けるか排出ピット迄ホースを引っ張って下さい。

ボールを取り外す場合は、A部のツメを押えたまま左に振じて、下に引っ張ると外れます。(エア―は必ず抜いて行って下さい)

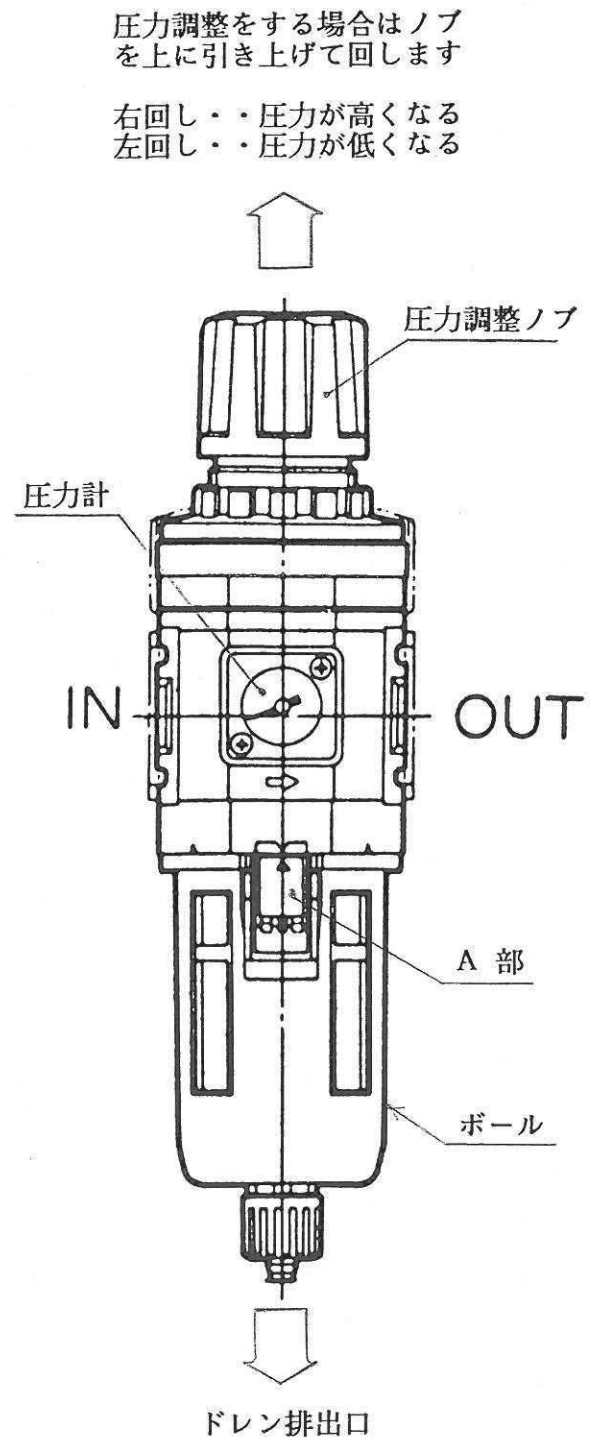
b レギュレータ

コンプレッサーから送られて来るエア―圧力(一次圧力)、を機械に適切な圧力(二次圧力)に調整する機器です。

本機に使用する圧力は0.4MPaです。調整は、圧力調整ノブを上を引き上げて回すと圧力の調整が出来ます。

右回し・・・圧力が高くなる

左回し・・・圧力が低くなる

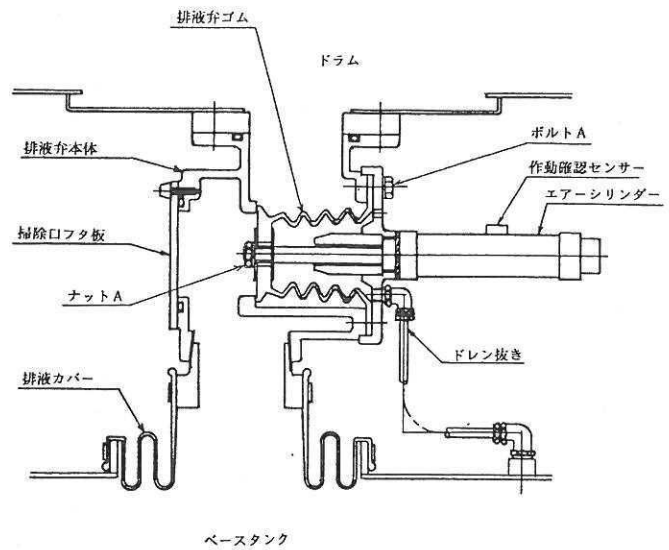


10-3 排液弁構造図

本機の排液弁はエア駆動方式の弁で、構造は右図のようになっており、ケーシング中央下部に取り付けられています。

排液弁ゴムの取り替え、又は点検が必要になった時は、

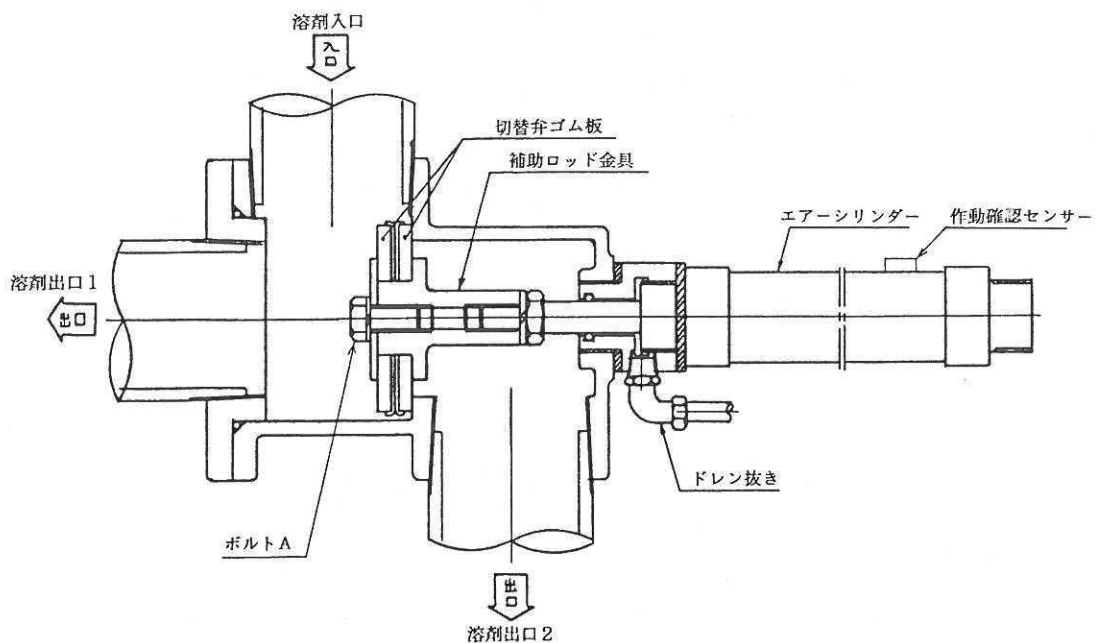
- 1) ボルトAを緩め排液弁本体を取り外します。
- 2) ナットAを緩め弁部をシリンダーより取り外します。
- 3) 排液弁ゴムを取り替え、逆の手順で組み立てます。



10-4 洗浄弁、左右切替弁構造図

洗浄弁、左右切替弁は下図のようになっており、エアシリンダーによって切替が行われています。

洗浄弁、左右切替弁の交換は、配管を外さないと交換することが出来ません。配管の継手部、及びフランジ部を外し洗浄弁、左右切替弁本体を取り出します。ボルトAを外し切替弁ゴム板の交換をしますが、ボルトAを外すとき、エアシリンダーのシャフトが回らないように、スパナで固定してから行って下さい。



11 各センサー部の点検整備

11-1 洗浄弁、左右切替弁作動確認センサーと排液弁作動確認センサー

a 洗浄弁、左右切替弁作動確認センサー

洗浄弁、左右切替弁作動確認センサーの役割は、ドラム内へ溶剤を送る洗浄弁V3、左右切替弁V1が、切り替わらないと脱液行程に入らないようにインターロックを取るためのものです。洗浄弁、左右切替弁の作動確認は、エアースリンダのピストンの動きを、近接スイッチセンサーで監視しており、センサーは洗浄弁V3、左右切替弁V1のエアースリンダの筒に取り付けられています。取り付けは下図の寸法の位置にセットします。センサーはビスAを緩めると動かすことができます。弁が切り替わらないときは、Er12を表示しブザーを鳴らして運転をストップします。

Er12が表示した場合は、センサーを点検するか、12-5項（洗浄弁、左右切替弁構造図）を参照し、シリンダー及び内部の点検を行って下さい。

b 排液弁作動確認センサー

排液弁作動確認センサーの役割は、ドラム内の溶剤をベースタンクに戻す排液弁V2orV4（ドラムの下部の弁）が、開かないと脱液行程に入らないようにインターロックを取るためのものです。

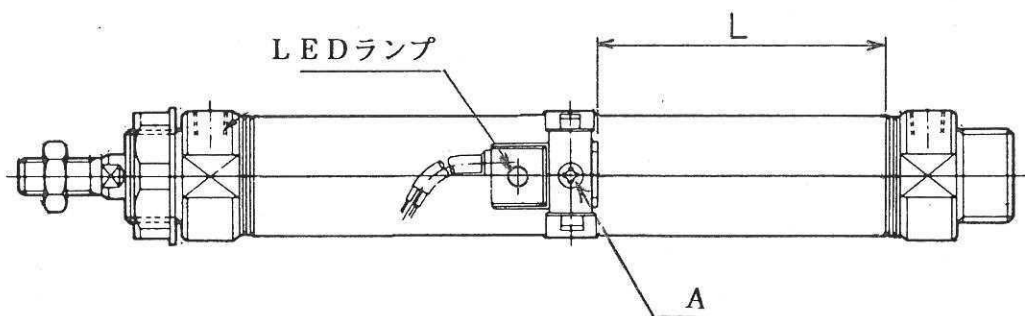
ドラム排液弁の作動確認は、エアースリンダのピストンの動きを、近接スイッチセンサーで監視しており、センサーは排液弁V2orV4のエアースリンダの筒に取り付けられています。取り付けは下図の寸法の位置にセットします。

センサーはビスAを緩めると動かすことができます。

排液弁が開かないときは、Er14を表示しブザーを鳴らして運転をストップします。排液弁不良のランプが点灯した場合は、センサーを点検するか、12-4項（排液弁構造図）を参照し、シリンダー及び内部の点検を行って下さい。

[L]寸法は基本的には下記の寸法となりますが、使用年数によっては多少ずれることがあります。位置調整は各電磁弁が『ON』したときに、センサー部のLEDランプが点灯する位置で固定して下さい。

- V1・・・左右切替弁・・・31mm（LEDランプはV1電磁弁『ON』で点灯）
- V3・・・洗浄弁・・・69mm（LEDランプはV3電磁弁『ON』で点灯）
- V2&V4・・・排液弁・・・43mm（LEDランプはV2&V4電磁弁『ON』で点灯）



11-2 静電気センサーの構造と点検

本機には、洗浄中衣類に静電気が「起こりやすい」状態であるか、「起こりにくい」状態であるかを判断する静電気センサーが、機械後部配管中に取り付けられています。
これは洗浄している溶剤中の、電気の流れ具合を測定し、流れにくい場合は「起こりやすい」流れやすい場合は「起こりにくい」を表示するようになっています。

静電気センサーはソープ濃度センサーではありません。

静電気センサーは溶剤の電気伝導度を測定しています。ソープ濃度を測定しているのではありません。水などの導電性液体が入っても「起こりにくい」を表示します。
ソープのチャージ量と、帯電防止効果は比例しますが、ソープの種類によってその効果は違います。帯電防止効果の高いソープは推奨品リスト(この推奨品は市販されているすべてのソープを対象にしたものではありません)に記載されています。

静電気センサーが「起こりにくい」を表示しない時

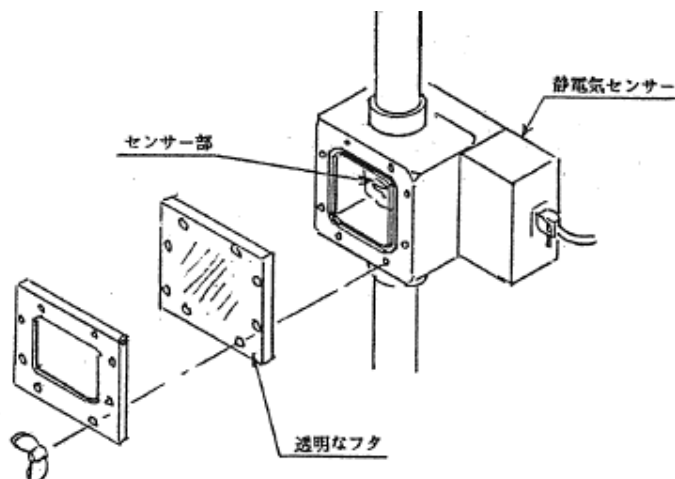
- a) 推奨品のソープを使用していますか？
推奨品以外のソープの場合は、ご使用のメーカーに帯電防止効果の度合いを確認して下さい。
- b) ソープ濃度は適正ですか？
必ずソープの度を測定し、ソープメーカー指定の濃度をチャージして下さい。
- c) 静電気センサーの中を溶剤が流れていますか？
ポンプ運転中に溶剤が循環しているか確認して下さい。
- d) 静電気センサーのセンサー基板が汚れていませんか？
機械後部配管途中に取り付けてある静電気センサーのセンサー部を、基板洗浄剤を浸した柔らかい布で、拭いて下さい。
「注意」 このセンサー測定部に使用している基板は、正確な測定を行うため、金メッキが施されていますので、強く拭くと基板表面の金メッキパターンが剥がれて正確な測定が行えなくなります。
- e) 静電気センサーにつながっている電線が断線していませんか？
テスターで断線していないか確認して下さい。

注)上記の項目がすべて適正であるのに「起こりにくい」にランプがつかない場合は、機械の使用を中止し、当社もしくはソープメーカーに相談して下さい。

注)モニターのランプが「起こりにくい」に点灯している時以外は、機械の運転を行わないで下さい。
静電気により引火爆発の可能性があります。

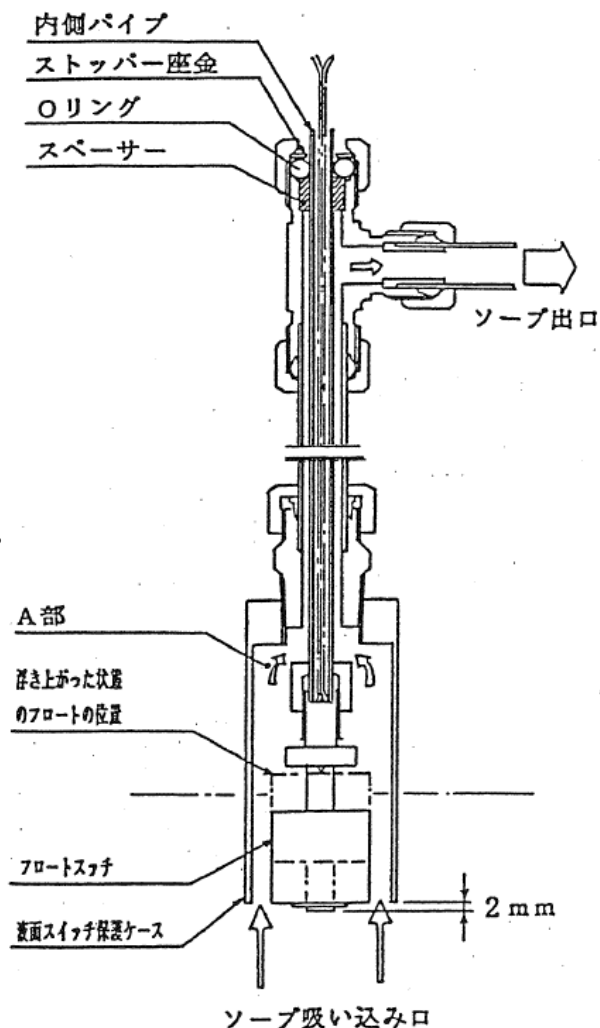
注)「中央」のランプは「起こりやすい」を表示する前に、ソープもしくは帯電防止剤を加えて戴くため、便宜上設けたものです。従って「中央」を表示したら、直ちにソープもしくは帯電防止剤を加えて「起こりにくい」を表示するようにして下さい。

基板の掃除は、透明なふたを外して行って下さい。
掃除が終わった後は、確実にフタをしないと、溶剤がこぼれる事があります。



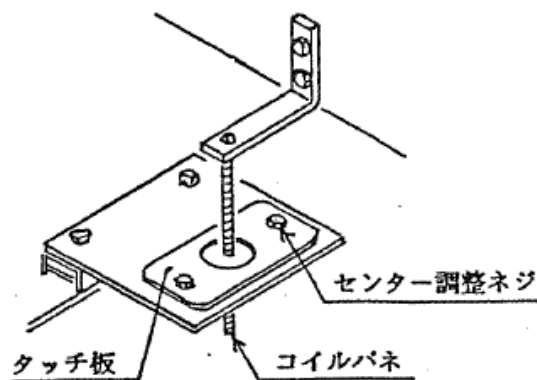
11-3 ソープ切れセンサーの構造と点検

- 本機には、自動ソープ投入機が内蔵されています。この自動ソープ投入機の先端は、ソープ吸込口兼ソープ切れセンサーとなっています。このソープ切れセンサーは、フロート方式のセンサーで、ソープが無くなると、ソープ投入量の設定表示が[点滅]します。ソープを補充してください。
※ブザーは鳴りません
- このソープ切れセンサーは、フロート方式のため、吸込部が大きくなっています。吸い込み部の大きさは、34φmmで一部入らないソープ缶があります。この場合は、入るソープ缶に移し替えてご使用下さい。
- ソープが無くなっているのにソープ投入量の設定表示が[点滅]しない時は、フロートを手で上下に動かして、表示が[点灯]になったりするか、確認して下さい。又この時、フロートが軽く動くかどうか確認して下さい。手で動かしても文字が[点滅]表示されない場合は、フロートスイッチの交換が必要です。
- ソープ缶を取り替えた直後、ソープ投入量の設定表示が[点灯]に変わらないことがあります。これはセンサーの故障ではなく、“A”部に空気がたまり、フロートが浮き上がっていないために起こります。この場合は、[ソープ手動投入]ボタンを4～5秒押しと空気が排出され、フロートが浮き上がって、ソープ投入量の設定表示が[点灯]に変わります。



11-4 振動検知スイッチの調整

- 本機では、品物のさばきがうまくゆかず、許容以上のアンバランスを生じた場合、振動検知スイッチが作動して、機械を一時停止させるようになってます。
 - このスイッチが作動した時は、機械が一時停止し、再度バランス回転を行い、脱液を行います。この操作が5回繰り返されますと、脱液を中止します。
 - 中止した場合は、品物のもつれを直し、脱液だけの行程にて再度脱液を行って下さい。
 - 振動検知スイッチは、ケーシング上部に取り付けられています。検知スイッチは、コイルバネとタッチ板が触れると作動しますので、調整は品物をバスケットに入れた状態で、コイルバネがタッチ板の穴の中央になるように調整して下さい。
- 【注意】** 1か月に1度、検知の妨げとなる可能性のあるグリスやホコリなど付着がないか確認し、スプリングの折れ、ケーブルの断線がないか確認して下さい。



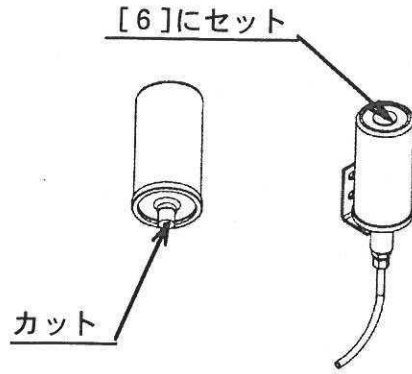
12 機械の保守、点検、掃除

12-1 機械の保守

1) 給油（付属オートグリスの取付方法）

- ・ 封印キャップ先端突起部のみをカットする。
- ・ 3mm六角レンチを使用し、上部のガスゼネレーターの数値[6]に△印を合わせる。
- ※目盛りの数値は使用ヶ月ではありません
- ・ 側面に使用開始日を記入する。
- ・ 給油ソケットにねじ込む。

☆取付方法は、取扱説明書の最後のページに記載されています。

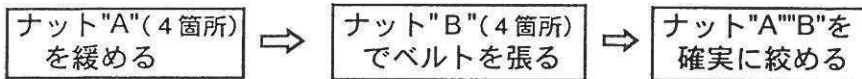
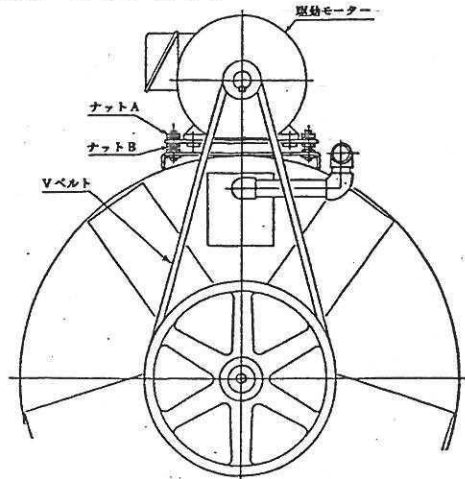


12-2 機械の点検、調整

1) Vベルトの点検、調整

危険 点検及びベルト張りの作業は、必ず元電源を切ってから行うこと

Vベルトの張り具合は、ベルトの中央付近を手で押して、少したわむぐらいが適当です。
 ベルトの張りすぎは、モーターへの過負荷となるばかりでなく、主軸ベアリングの寿命を短くします。
 ベルト張りの作業手順

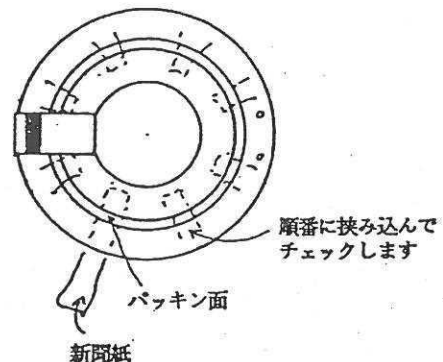


注意 ナットは4箇所同じように調整して下さい。

2) フタの点検、調整

フタ部パッキンより液漏れがある場合は、下記の要領で調整を行って下さい。

- 新聞紙を3 Cm 幅位の短冊状に切ります。
- それを右図のようにパッキン面に挟み、手でフタを押した状態で、新聞紙を引っ張ります。
 当たり面が悪い時は、新聞紙は切れずに抜けます。
- この作業を、全周8等分箇所で行います。

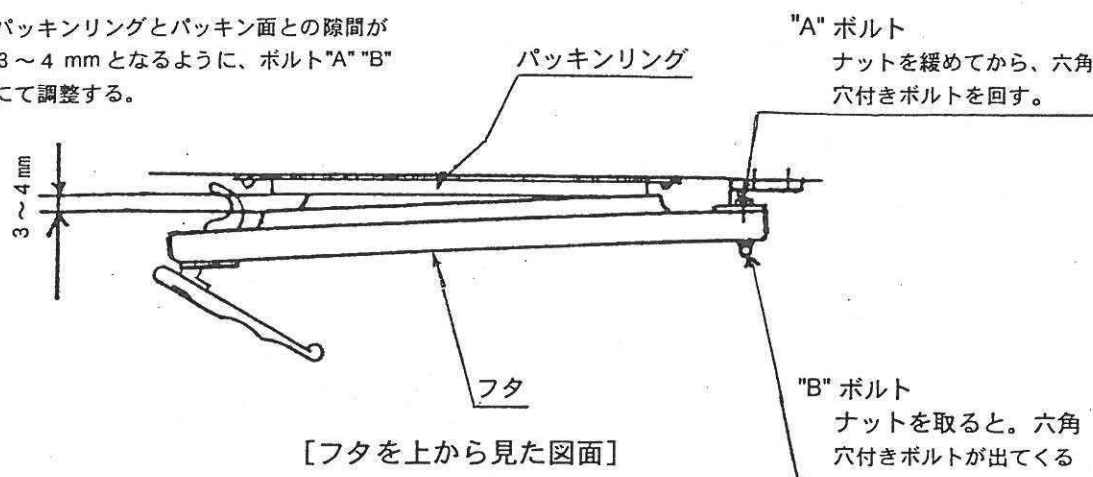


新聞紙が切れなかった位置が右半分側の時・・・蝶番部の調整を行います。
 新聞紙が切れなかった位置が左半分側の時・・・掛け金具部の調整を行います。

2-1 蝶番部の調整

"A" ボルト、"B" ボルトにて、パッキンリングとパッキン面の隙間が、下図の寸法になるように調整します。

パッキンリングとパッキン面との隙間が 3～4 mm となるように、ボルト"A" "B"にて調整する。



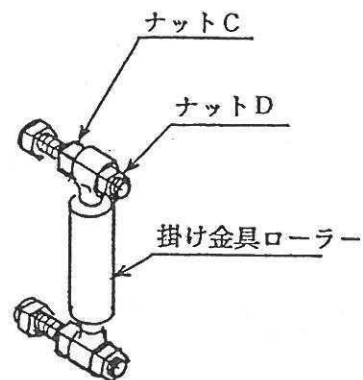
"B" ボルトを緩め、"A" ボルトを締める ⇒ 隙間が広くなる
 "A" ボルトを緩め、"B" ボルトを締める ⇒ 隙間が狭くなる
 上下のボルトは均等に調整して下さい。

2-2 掛け金具部の調整

ナット"C"、ナット"D"にて調整を行います。

ナット"C"を緩めナット"D"を締める
 ↓
 締まりが強くなる

ナット"D"を緩めナット"C"を締める
 ↓
 締まりが弱くなる



調整後のボルト、ナットは確実に締めておいて下さい。

3) ゴムホースその他パッキン類の点検

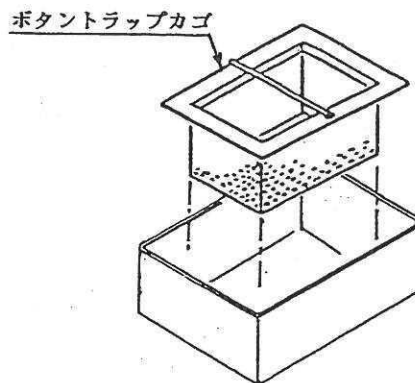
本機には、下記に示す箇所にゴムホースが使用されています。
 定期的に点検を行って下さい。又、その他液漏れがないか点検し、液漏れがある場合は、調整若しくは修理を行って下さい。

給液切替弁とドラムとの接続部（給液ホース）	左右各1本
排液弁とタンクの接続部分（排液化バー）	左右各1本
オーバーフローとタンクの接続部分（排液カバー）	左右各1本
その他ビニール、エアーホース類	数カ所

12-3 機械の掃除

1) ボタントラップの掃除

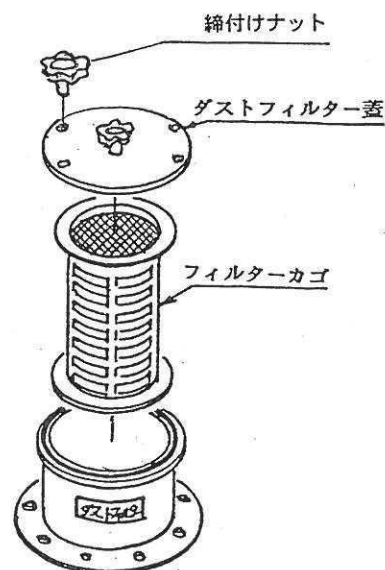
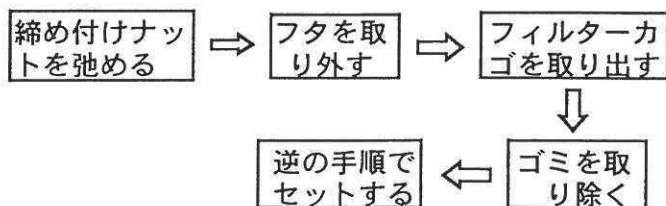
本機のボタントラップは、右図のようにカゴ型方式となっていますので、よく掃除をして下さい。特に毛布などのような、毛埃が多くでるようなものを洗浄した後は、その都度注意して掃除をしないと、タンクより溶剤がこぼれることがあります。



2) ダストフィルターの掃除

本機には、ポンプの保護と、カートリッジの負担を軽減するために、ダストフィルターと呼ぶフィルターが、ポンプの吸い込み配管に取り付けられています。フィルターが目詰まりしますと、溶剤の流れが減少します。従って、毎日フィルターの掃除を行って下さい。

掃除の手順



13 インバーター及びオーバーロードについて

13-1 インバーターについて

本機はインバーター駆動方式になっています。通常の使用中に、[Er22]が表示され、機械が止まる事があります。このメッセージは、インバーターに異常が起きた時に表示されます。

この場合は、[オーバーロードについて]の項の指示に従って処理をしてください。

インバーターは、本機の後部の上に取り付けられています。

このインバーターは、インバーターに取り付けられている操作パネルで、手動運転をする事も出来ますが、操作を間違えると、中のデータが書き換わる事がありますので、操作をしないようにして下さい。

13-2 オーバーロードについて

1) インバーターエラー[Er22]

規定以上の負荷が掛かると、インバーター及びモーター保護のために、インバーターエラー[Er22]表示して、機械を停止します。保護のため自動停止したトラブルについては、電源を切って再度[ON]すると復帰しますが、インバーター自信が故障した時は復帰できません。

この時は、異常表示の内容がインバーター本体の操作パネル **LED 表示窓に表示されます。**

表示される**エラー記号**を確認し、メーカーに**連絡して下さい。**

復帰しないインバーター異常が発生した時は、電源を切って再度[ON]しても、数秒後にインバーターの電源が [OFF]されます。後で表示を見ている状態で、他の人に電源を入れてもらって、表示されている間に表示記号を確認して下さい。

電源を再度[ON]しても、**LED 表示窓に表示されない場合はインバーターを交換**して下さい。

異常表示の内容は付属のインバーターのマニュアルを参照し、異常内容を確認して下さい。

<下記を参照>

 MITSUBISHI 「保護機能」

2) サーマルエラー[Er16]

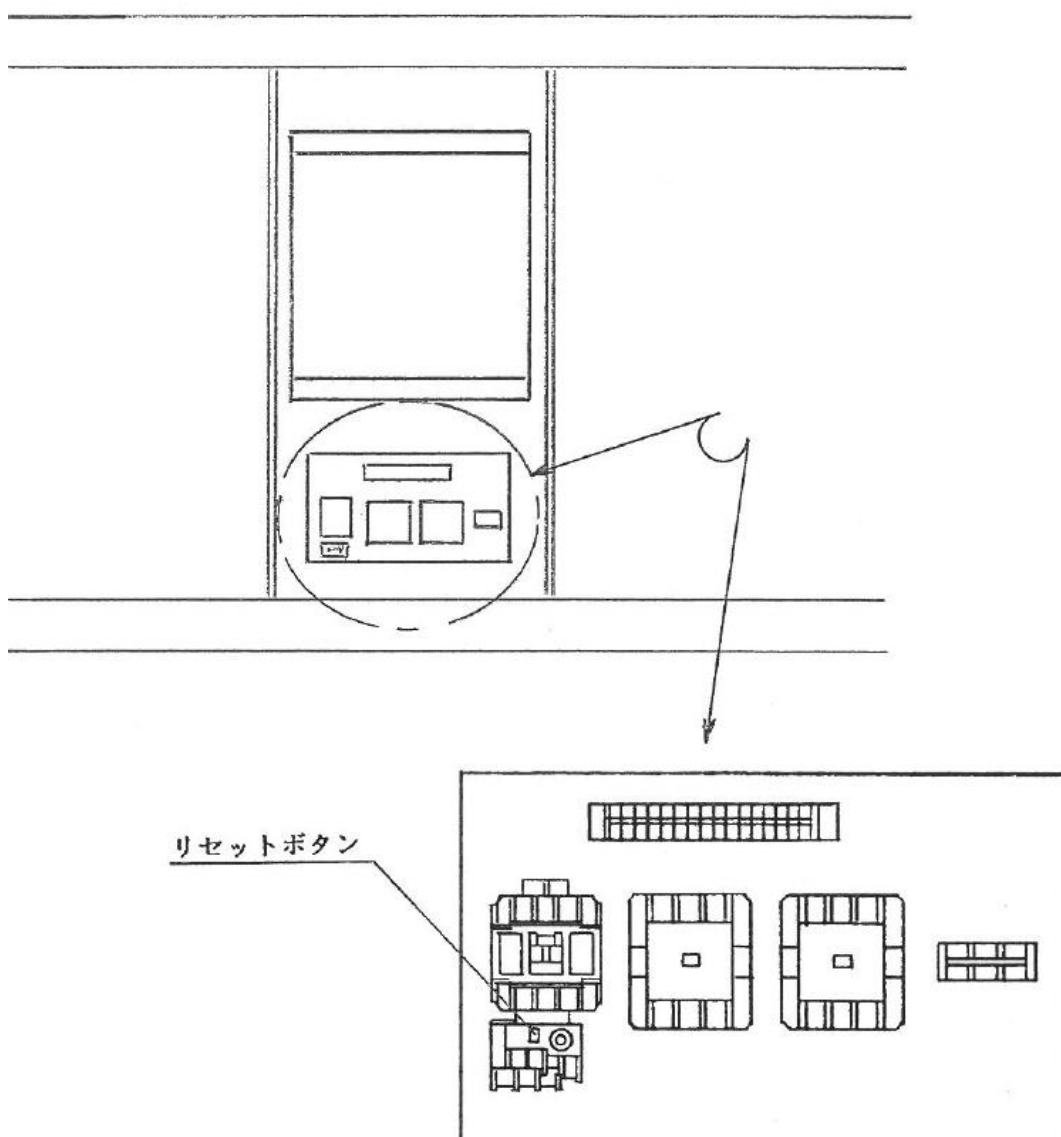
本機に搭載されているポンプは、規定以上の負荷が掛かると、モーターの焼損を防止するため、モーターの電流を遮断するサーマルプロテクターが付いています。

サーマルプロテクターが作動した場合は、下記の事項を点検の上、手動でサーマルを解除して下さい。サーマルプロテクターは、機械上部の制御ボックス内に取り付けられています。

点検事項

- 1) ポンプの羽根にゴミが溜まっていないか点検して下さい。
- 2) ポンプの羽根が破損していないか点検して下さい。
- 3) 単相運転(3本線のうち1本が切れたり、弛んだりした時)になっていないか点検して下さい。
- 4) モーターが異常に過熱していないか点検して下さい。
(モーターのベアリング等が破損した時などに起こる)

機械全面



サーマルプロテクターが作動したときは、リセットボタンを押して解除してください。

14 エラー表示内容

Er01	・キー操作エラー	操作できないキーを押した時に表示
Er02	・データエラー	工程に 0 分の設定がある時に表示
Er04	・全行程時間エラー	全行程時間が 99 分を超えた時に表示
Er06	・メモリーエラー	RAM バッテリー不良となった時に表示
Er07	・温度エラー	溶剤温度が 36℃以上になった時に表示
※停止しません			
Er12	・洗浄弁・左右切替弁エラー	洗浄弁・左右切替弁が作動しない時に表示
Er14	・左右排液弁エラー	左右排液弁が作動しない時に表示
Er15	・振動エラー	振動検知が5回作動した時に表示
Er16	・サーマルエラー	ポンプサーマルが作動した時に表示
Er17	・ドアエラー	運転中にドアが開いた時に、ドアロックが外れた時に表示
Er21	・防爆エラー	防爆エラースイッチが作動した時に表示
Er22	・インバーターエラー	インバーター不良が発生した時に表示
Er27	・回生抵抗エラー	モーターの減速中に過電流が流れた時に表示
Er30	・溶剤温度サーミスタエラー	サーミスタが断線した時に表示
Er31	・溶剤温度サーミスタエラー	サーミスタが短絡した時に表示
SOAP	・静電気エラー	モニターランプが『起こりやすい』に点灯した時に表示

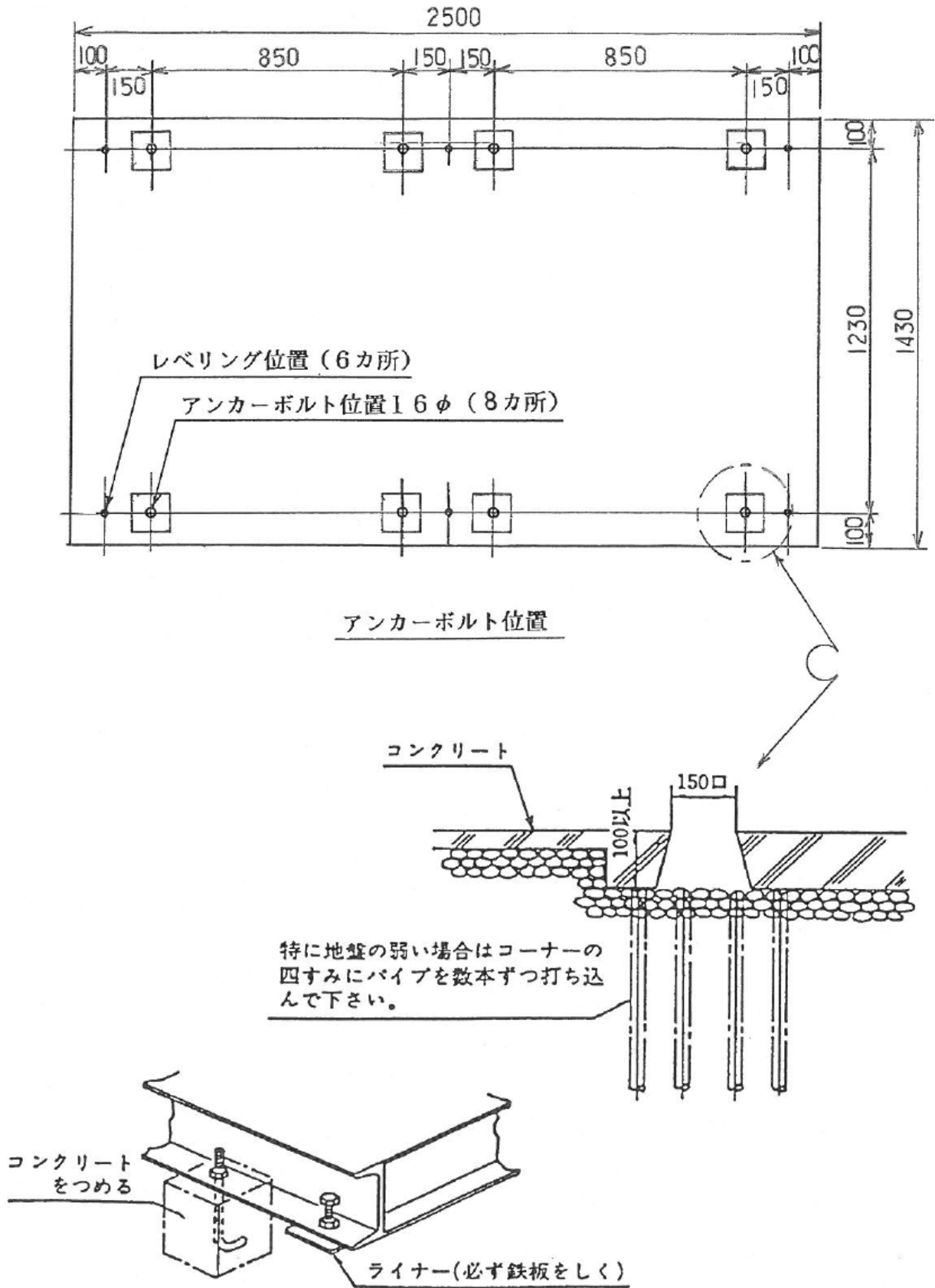
15 主な洗濯物の投入量

投入量が多すぎる場合は、過負荷となりインバーターエラーや、機械の寿命を短くする原因となります。逆に少ない場合は、脱液時のバランスが取りにくくなりますので、下表を参照の上規定重量を守って下さい。

品名	(重量 kg)	220	品名	(重量 kg)	220
上着	1.00	22 枚	和服コート	2.00	11 枚
チョッキ	0.30	73	ハーフコート	0.30	73
ズボン	0.70	31	事務服	0.60	37
スカート	0.60	37	毛布(S)	3.00	7
オーバー	2.00	11	毛布コート	1.50	15
スプリング	1.50	15	毛皮	3.00	7
レインコート	1.00	22	皮コート	1.00	22
ドレス	0.60	37	カーテン	1.50	15
セーター	0.40	55	タイバック	0.03	733
スポーツシャツ	0.30	73	ベットカバー	2.00	11
ブラウス	0.25	88	椅子カバー	0.80	27
ボレロ	0.30	73	テーブルクロス	0.60	37
ケープ	0.30	73	マフラー	0.10	220
ガウン	0.50	44	ネクタイ	0.05	440
着物	0.50	44	手袋	0.15	147
帯	1.00	22	メリヤス上下	0.80	27

16 基礎参考図

★基礎は地盤によって異なりますので参考として下さい。



17 クーラー接続要領（オプション仕様）

本機には3つのタイプのクーラーが接続できます。

- 1) 内蔵型仕様タイプのクーラー …… このクーラーを使用する場合は、チラー水又は井戸水が必要です。
(簡易型) (水道水又はクーリングタワーでの使用はできません。)
- 2) 別置型仕様タイプのクーラー …… このクーラーを使用する場合は、チラー水又は井戸水が必要です。
(水道水又はクーリングタワーでの使用はできません。)
- 3) 冷凍機仕様タイプのクーラー …… このクーラーは溶剤を冷凍機にて直接冷却するタイプです。

17-1 内蔵型仕様タイプのクーラー

1) 主な仕様

型式	ocd-22	冷却水水量	40 L/min 以上
最大熱交換量	40,000 kJ/h	冷却水温度	設定温度 -10°C 以下
冷却水入口径	20A (3/4B)	(参考)	
冷却水出口径	20A (3/4B)	チラー容量	2.2 kw 以上
冷却水圧力	0.2 MPa 以下	本体寸法	125x125x725L mm (2本)

- 2) 取り付け要領 …… 2-3項を参照してください
- 3) 操作手順 …… 本機では、自動温度調整は出来ません。
手動調整になります。

注意事項

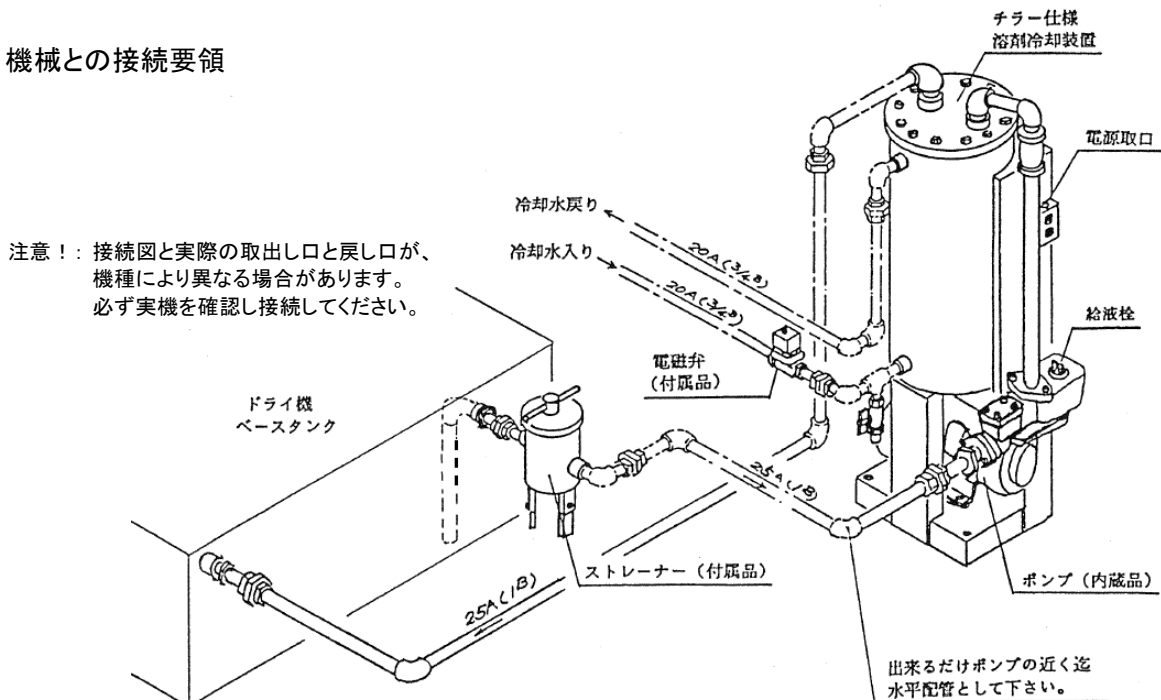
- 1 冷却水は設定温度-10°C以下の水を供給してください。
- 2 クーラーの冷却水出口側にはバルブを絶対に取り付けしないでください。
危険！：蒸気等による溶剤加熱は絶対にしないようにして下さい。

17-2 チラー仕様タイプ

1) 主な仕様

型式	dc-7	冷却水圧力	0.2 MPa 以下
適用機種	22キ口機	冷却水水量	30 L/min 以上
最大熱交換量	32,340 kJ/h	冷却水温度	設定温度 -10°C 以下
溶剤入口径	25A (1B)	(参考)	
溶剤出口径	25A (1B)	必要チラー容量	22キ口 : 2.2 kw 以上
溶剤循環量	45 L/min	ポンプ(標準装備)	カスケード (0.4 kw)
冷却水入口径	20A (3/4B)	電源	AC200V 3相 2.8A
冷却水出口径	20A (3/4B)	機械寸法	260幅x355奥行x885高さ mm

2) 機械との接続要領



3) 施工時の注意事項

- 配管は全て鉄管にて行って下さい。
- 雨又は水のかかる所へは設置しないで下さい。
- 高温になる部屋、直射日光の当たる所、火気の近くには設置しないで下さい。
- 転倒のおそれがある場合は、必ずアンカーにて固定して下さい。
- ポンプの元電源には必ず0.4kw用モーターブレーカーを取り付けて下さい。
参考：三菱電機製品モーター保護用ノーヒューズ遮断器 (MB30-CS型)
- 冷却水の圧力は必ず0.2MPa 以下で供給して下さい。
- 冷却水の温度は設定温度より10℃以上低い水温の水を供給して下さい。
- 冷却水の制御は必ず入口側にて行って下さい。また出口側には絶対にバルブを取り付けしないで下さい。

※FW タイプは機械側での温度制御電磁弁を制御出来ません。

注1) 冷却水の循環が止まっても、冷却水循環ポンプに負荷がかからないように、バイパス配管を取り付ける等の保護処置を必ず行って下さい。

- 凍結の恐れがある場合は、冷却水を抜き取れるように水抜きバルブを必ず取り付けて下さい。

4) 運転の方法

- ストレーナーの蓋が閉まっているか確認して下さい。
- ポンプ内の溶剤が抜けている場合は、ジョウゴより呼び液をいれて下さい。
- ポンプの元電源をいれて下さい。
注1) 1分程たっても液が循環していないようであれば、再度呼び液をポンプにいれて下さい。空運転を行いますとポンプのメカニカルシールが焼損します。
- 冷却水回路の運転を行って下さい。
- 運転を終了する場合は、ポンプの元電源及び冷却水回路を止めて下さい。

注1) 溶剤温度をあまり低くすると、溶剤配管経路に汗をかき、溶剤中に水分が混入することがありますので注意して下さい。 **目安温度: 27~30℃**

※ 周囲環境により結露の発生温度は変化します。結露が発生しているようであれば、設定温度を見直して下さい。

注2) ストレーナーの掃除は小まめに行ってください。ストレーナーが詰まると、溶剤が循環しなくなり、ポンプに負担がかかり、最悪はモーターが焼損する可能性があります。

17-3 冷凍機仕様タイプ

1) 主な仕様

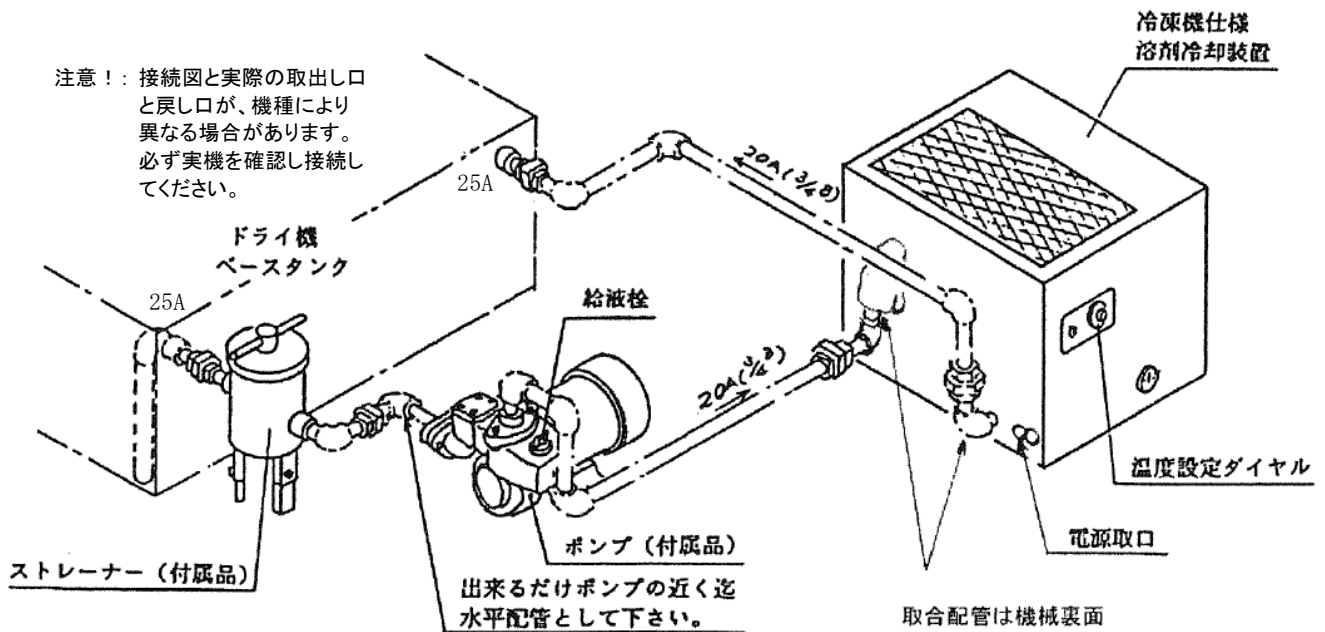
(冷却機)

型式	RKS1500FT
適用機種	22キ口機
電源	AC200V 3相 50Hz/60Hz
消費電力	1.5/1.9 kw
冷却能力	3.64/4.1 kw (13,180/14,860 kJ/h)
溶剤入口径	20A (3/4B)
溶剤出口径	20A (3/4B)
溶剤循環量	30~50/30~60 L/min
温度設定範囲	20~30 °C
周囲温度範囲	5~40 °C
使用冷媒	R407C
外形寸法	500幅x650奥行x600高さ mm
重量	60 kg

(ポンプ)

型式	カスケードポンプ (WPT-401)
電源	AC200V 3相 0.4 kw
能力	34/36 L/min (圧力0.12 MPa)
配管接続口径	32A (1 1/4B)

2) 機械との接続要領



3) 施工時の注意事項

- a) 配管は全て鉄管にて行って下さい。
- b) 雨又は水のかかる所へは設置しないで下さい。
- c) 高温になる部屋、直射日光の当たる所、火気の近くには設置しないで下さい。
- d) 冷凍機の吸気口及び排風口をふさがないで下さい。又、吸気口及び排風口の近くに物を置き(1m以上の空間を取る)、通風の障害となるようなこともしないで下さい。
- e) ポンプの元電源には必ず0.4kw用モーターブレーカーを取り付けて下さい。
参考:三菱電機製品モーター保護用ノーヒューズ遮断器(MB30-CS型)
- f) 冷凍機の元電源には15Aのブレーカーを取り付けて下さい。

4) 運転の方法

- a) ストレーナーの蓋が閉まっているか確認して下さい。
- b) ポンプ内の溶剤が抜けている場合は、ジョウゴより呼び液をいれて下さい。
- c) ポンプの元電源をいれて下さい。
注1) 1分程たっても液が循環していないようであれば、再度呼び液をポンプにいれて下さい。空運転を行いますとポンプのメカニカルシールが焼損します。
- d) 冷凍機の元電源をいれて下さい。
- e) 冷凍機についている温度設定を確認し、変更する場合は設定を変えて下さい。
- f) 運転を終了する場合は、冷凍機の元電源、ポンプの元電源の順に切って下さい。

注 1) 運転中に冷凍機が自動的に『ON』『OFF』を繰り返すことがありますが、これは故障ではありません。設定温度に達すると自動制御が働くためになる現象です。

- 2) 溶剤が設定温度に達していないのに冷凍機が停止する場合は、冷凍機の保護装置が作動したと考えられます。

この場合は、冷凍機の空気吸い込み口のフィルターの掃除及び、その奥にあります凝縮機のフィンの掃除を行って下さい。

- 3) 溶剤の設定温度をあまり低くすると、溶剤配管経路に汗をかき、溶剤中に水分が混入することがありますので注意して下さい。

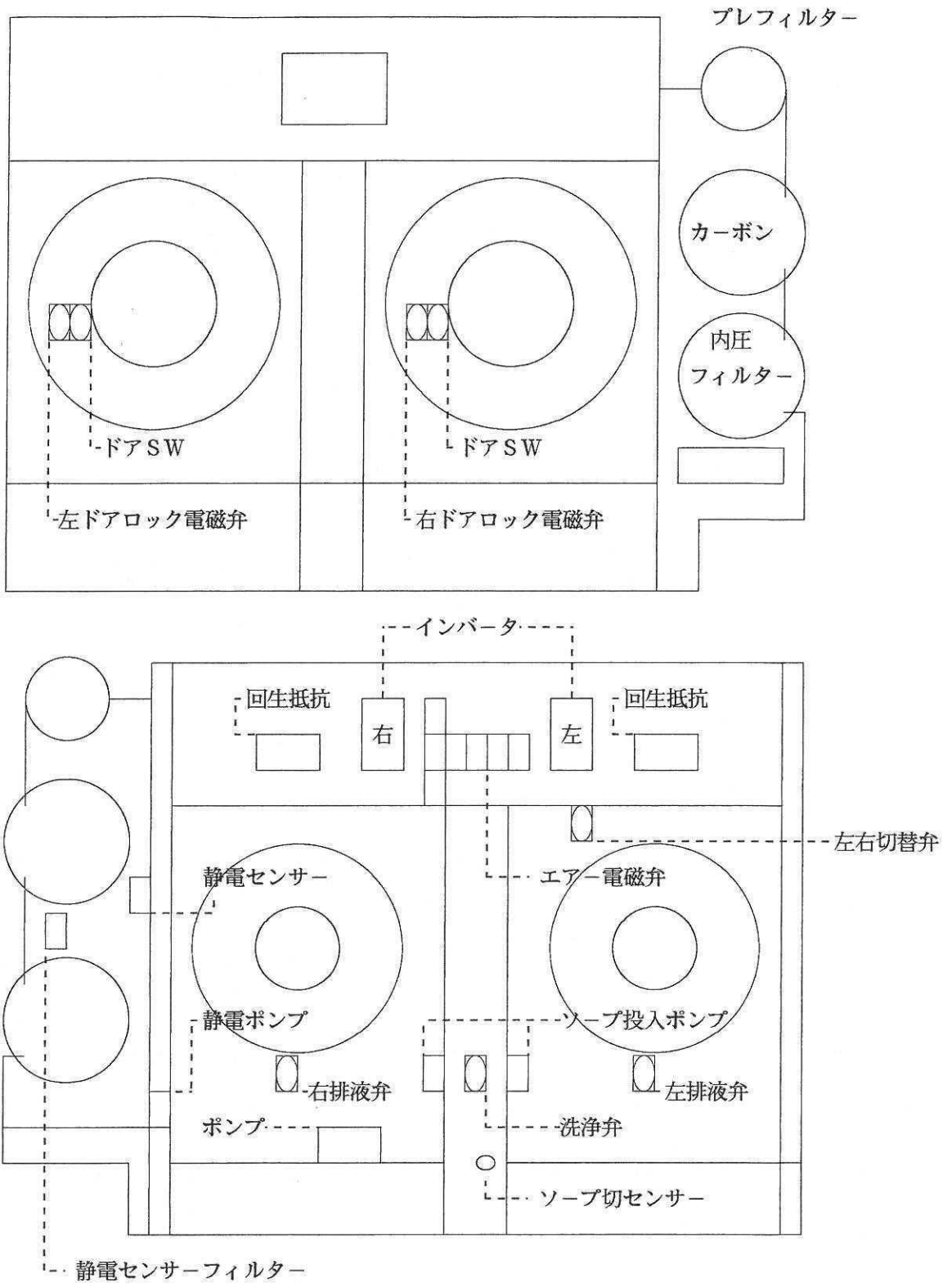
設定目安温度:27~30℃

※ 周囲環境により結露の発生温度は変化します。結露が発生しているようであれば、設定温度を見直してください。

- 4) ストレーナーの掃除は小まめに行ってください。ストレーナーが詰まると、溶剤が循環なくなり、ポンプに負担がかかり、最悪はモーターが焼損する可能性があります。

<付属書>

前 面



DO220FW

平成16年1月～

入出力端子表 左側

サーミスター(-)	300
OV	
防爆スイッチ	32
ソープ切れ	18
OV	100
左切替弁センサー	24
左排液弁センサー	25
OV	100
左インバータ速度到達	27
左インバータ出力停止	
左インバータ逆転	222
左インバータ速度2	224
左インバータ第2	226
DC24V	124
左右切替弁出力(V1)	230
左排液弁出力(V2)	231
AC100VCOM	
パトライト(運転)	
200VCOM	
薬品1(バッチ)	
インバータMG	260

300	1	2	301
+15	3	4	
100	5	6	
32	7	8	100
18	9	10	22
100	11	12	23
24	13	14	100
25	15	16	31
100	17	18	26
27	19	20	30
220	21	22	221
222	23	24	223
224	25	26	225
226	27	28	124
	29	30	237
124	31	32	232
230	33	34	124
231	35	36	
	37	38	
	39	40	
L1	41	42	271
	43	44	
	45	46	S2
	47	48	263
S2	49	50	262
261	51	52	S2
260	53		

301 サーミスター(+)

OV	
22 左ドアスイッチ	
23 左振動スイッチ	
100 OV	
31 左回生抵抗サーマル	
26 左インバータ運転中	
30 左インバータ異常	
221 左正転	
223 左インバータ速度1	
225 左インバータ速度3	
124 DC24V	
237 ブザー	
232 ドアロック	
124 DC24V	

ソープ投入機AC100V

200VCOM	
薬品3(サバキ)	
薬品2(オーバーフロー)	
S2 200VCOM	

R	R
S	S
アース	E

入出力端子表 右側

静電センサー電源	15
OV	100
防爆スイッチ	52
ポンプサーマル	17
OV	100
右切替弁センサー	44
右排液弁センサー	45
OV	100
右インバータ速度到達	47
右インバータ出力停止	
右インバータ逆転	242
右インバータ速度2	244
右インバータ第2	246
DC24V	124
洗浄弁(V3)	250
右排液弁出力(V4)	251
AC100VCOM	
パトライト(運転)	
溶剤ポンプ	270
200VCOM	
薬品1(バッチ)	
インバータMG	264

	1	2	
+15	3	4	60
100	5	6	
52	7	8	100
17	9	10	42
100	11	12	43
44	13	14	100
45	15	16	51
100	17	18	46
47	19	20	50
240	21	22	241
242	23	24	243
244	25	26	245
246	27	28	124
	29	30	
124	31	32	252
250	33	34	124
251	35	36	
	37	38	
	39	40	
L1	41	42	272
	43	44	
	45	46	S2
270	47	48	267
S2	49	50	266
265	51	52	S2
264	53		

60 静電センサー入力

100 OV	
42 右ドアスイッチ	
43 右振動スイッチ	
100 OV	
51 右回生抵抗サーマル	
46 右インバータ運転中	
50 右インバータ異常	
241 右正転	
243 右インバータ速度1	
245 右インバータ速度3	
124 DC24V	
252 ドアロック	
124 DC24V	

静電ポンプ
ソープ投入機AC100V

S2 溶剤ポンプCOM	
薬品3(サバキ)	
薬品2(オーバーフロー)	
S2 200VCOM	

オートグリス取扱方法

オートグリスは機械の附属品として同梱されています。下記『取付方法』に従って取付けてください。

仕様

名 称	sima lube オートグリス (自動給油器)					
駆動方法	H ガス圧力 (乾電池式)					
取付方向	自由 (オイルの場合は逆仕弁キャップ使用)					
内 容 量	1 2 5 ml					
作動圧力	最大 3 kg/cm ² (3 bar)					
吐出期間	設定範囲 無段階 1～12 ※使用温度や潤滑剤などにより設定数値と使用月数とが異なる場合があります。					
吐 出 量	設定値	1	3	6	9	12
	ml / 日	2.4	0.92	0.48	0.32	0.25
	期間 (日)	50	130	250	370	490
使用温度	- 20℃～+ 55℃					
使用期間	潤滑剤充填後 2 年以内					
保管方法	室温冷暗所で保管してください。					
重 量	約 190 g (潤滑剤充填後) 約 70 g (空容器)					
外形寸法	φ 52mm H100mm (全高 114mm) おねじ R1/4 × 14mm					
使用注意	直接熱をさけること。					
水中使用	水中での使用可 (取付時の水混入に注意)					

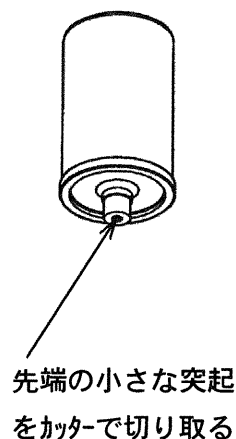
上記吐出量は、グリス 2 号 0℃のデータです オイルの場合吐出量は多少多くなり期間は短くなります。

取付方法

- (1) 封印キャップ先端の小さな突起をカッターで切り取る。
封印キャップは外さないで下さい。
- (2) 市販の 3 mm の六角レンチを使用して、上部のガスジェネレーターの希望の設定数値 [6] のところに、△印をセットする。 ⇒スイッチ ON (すぐには出て来ません。)

※目盛りの数値は使用ヶ月ではありません

※設定値調整穴は変形しやすいので、良質な六角レンチを深く差し込み慎重に行う事。
- (3) 油性ペンなどで、本器の側面ラベルに使用開始日を記入する。(使用開始日：)
- (4) 本器を給脂箇所到手でねじ込む。
※注記を必ずお読みください。
- (5) 本器が吐出期間を終了したら、新しいオートグリスと交換をしてください。



※注記

- (1) オートグリスを確実に作動させるためには、潤滑経路がきれいになっていることが重要です。
- (2) 潤滑経路が詰まっている状態で取付けた場合、ガス圧が異常に高くなり約 7kg/cm² を越えると、安全対策として本体底部又は、ガスジェネレータ部上部が破壊するようになっており、順調に給脂が行われていて途中で潤滑経路が詰まった場合は本体底部が破壊するようになっていますのでご注意ください。
- (3) 本器は使用中に吐出期間の変更や停止が自由に出来ます。
- (4) ガスジェネレーターを ON (設定値にする) にしてからグリスの吐出が開始するまでに時間がかかります。グリスの吐出を確認した後取付けてください。

(グリースが出ない場合は、ガスジェネレーターの締め付け不良によるガス漏れ、ガスジェネレータの不良、吐出部の封印キャップの取り忘れ〔オイルは封印キャップ先端突起部の切り忘れ〕などが考えられます。)

吐出量の決定 (全自動水洗機 石油系ドライ機 の場合)

設定スイッチを〔6〕に設定してください。〔6以上〕に設定しますと軸受のオイルシールの寿命が短くなりますので設定しないでください。

設定値と温度、使用期間 (早見表)

設定値	使用期間 (日数)					
	- 20℃	- 10℃	0℃	10℃	20℃	40℃
0	稼動停止状態					
1	70	60	50	40	30	20
2	110	100	90	75	60	45
3	150	140	130	110	90	70
4	190	180	170	145	120	95
5	230	220	210	180	150	120
6	270	260	250	215	180	145
7	310	300	290	250	210	170
8	350	340	330	285	240	195
9	390	380	370	320	270	220
10	440	420	410	355	300	245
11	490	460	450	390	330	270
12	550	510	490	425	365	300

上記使用期間は、グリス1号を背圧0で使用した場合です

グリスの0号又はオイルを使用した場合、使用期間は上記早見表より多少短くなります。

洗濯事業に関連する労働安全衛生法・規則について

本機は労働安全衛生法・規則に該当する機械です。
従って、下記の事項が使用者に義務づけられています。
必ず遵守して頂きますようお願いいたします。

遠心機械に関する確認事項内容（対象機種：ドライクリーニング機、水洗機）

1. 内容物を取り出す場合の運転停止（労働安全衛生規則第百三十九条）
機械の運転を停止してから内容物を取り出すこと。
2. 最高使用回転数をこえる使用の禁止（労働安全衛生規則第百四十条）
機械の最高使用回転数をこえて使用しないこと。
3. 定期自主検査（労働安全衛生規則第百四十一条）
一年以内ごとに一回、以下の自主検査を行ない、三年間記録を保存すること。

1) 点検すべき事項

- (1) 回転体の異常の有無
- (2) 主軸の軸受部の異常の有無
- (3) ブレーキの異常の有無
- (4) 外わくの異常の有無
- (5) 前各号に掲げる部分のボルトのゆるみの有無

2) 記録すべき事項

- (1) 検査年月日
- (2) 検査方法
- (3) 検査箇所
- (4) 検査の結果
- (5) 検査を実施した者の氏名
- (6) 検査の結果に基づいて補修等の措置を講じたときは、その内容

3) 補修等

点検を行ない、異常を認めた場合、直ちに補修その他の必要な措置を講じること。

危険物等の取扱い等に関する取り扱い（対象機種： ドライクリーニング機）

1. 危険物（労働安全衛生施行令 別表第一）を製造する場合等の措置（労働安全衛生規則 第二百五十六条）
 - 1) 爆発性の物（過酢酸等が該当）については、みだりに、火気その他点火源となるおそれがあるものに接近させ、加熱し、摩擦し、又は衝撃を与えないこと。
 - 2) 発火性の物（該当なし）については、それぞれの種類に応じ、みだりに、火気その他点火源となるおそれのあるものに接近させ、酸化をうながす物若しくは水に接触させ、加熱し、又は衝撃を与えないこと。
 - 3) 酸化性の物（次亜塩素酸ソーダが該当）については、みだりに、その分解がうながされるおそれのある物に接触させ、加熱し、摩擦し、又は衝撃を与えないこと。
 - 4) 引火性の物（クリーニング溶剤のうち引火点65℃未満のものが該当）については、みだりに、火気その他点火源となるおそれのあるものに接近させ、若しくは注ぎ、蒸発させ、又は加熱しないこと。
 - 5) 危険物を製造し、又は取り扱う設備のある場所を常に整理整頓し、及びその場所に、みだりに、可燃性の物又は酸化性の物を置かないこと。
2. 作業指揮者（労働安全衛生規則第二百五十七条）
 - 1) 危険物を製造し、又は取り扱う設備及び当該設備の附属設備について、随時点検し、異常を認めるときは、直ちに必要な措置をとること。
 - 2) 危険物を製造し、又は取り扱う設備及び当該設備の附属設備がある場所における温度、湿度、遮（しゃ）光及び換気の状態等について随時点検し、異常を認めるときは、直ちに必要な措置をとること。
 - 3) 前各号に掲げるもののほか、危険物の取扱いの状況について、随時点検し、異常を認めるときは、直ちに、必要な措置をとること。
 - 4) 前各号の規定によりとった措置について、記録しておくこと。

遠心機械の定期自主検査記録表

(労働安全衛生規則 第四百四十一条の遠心機械定期自主検査の規定による)

会社名 (工場名)		検査実施日	年 月 日
		記録保管期日	年 月 日迄保管する

検査機種名	
型 式	
製造番号	

検査記録は3年間保管する義務があります

確認者		検査 担当者	
-----	--	-----------	--

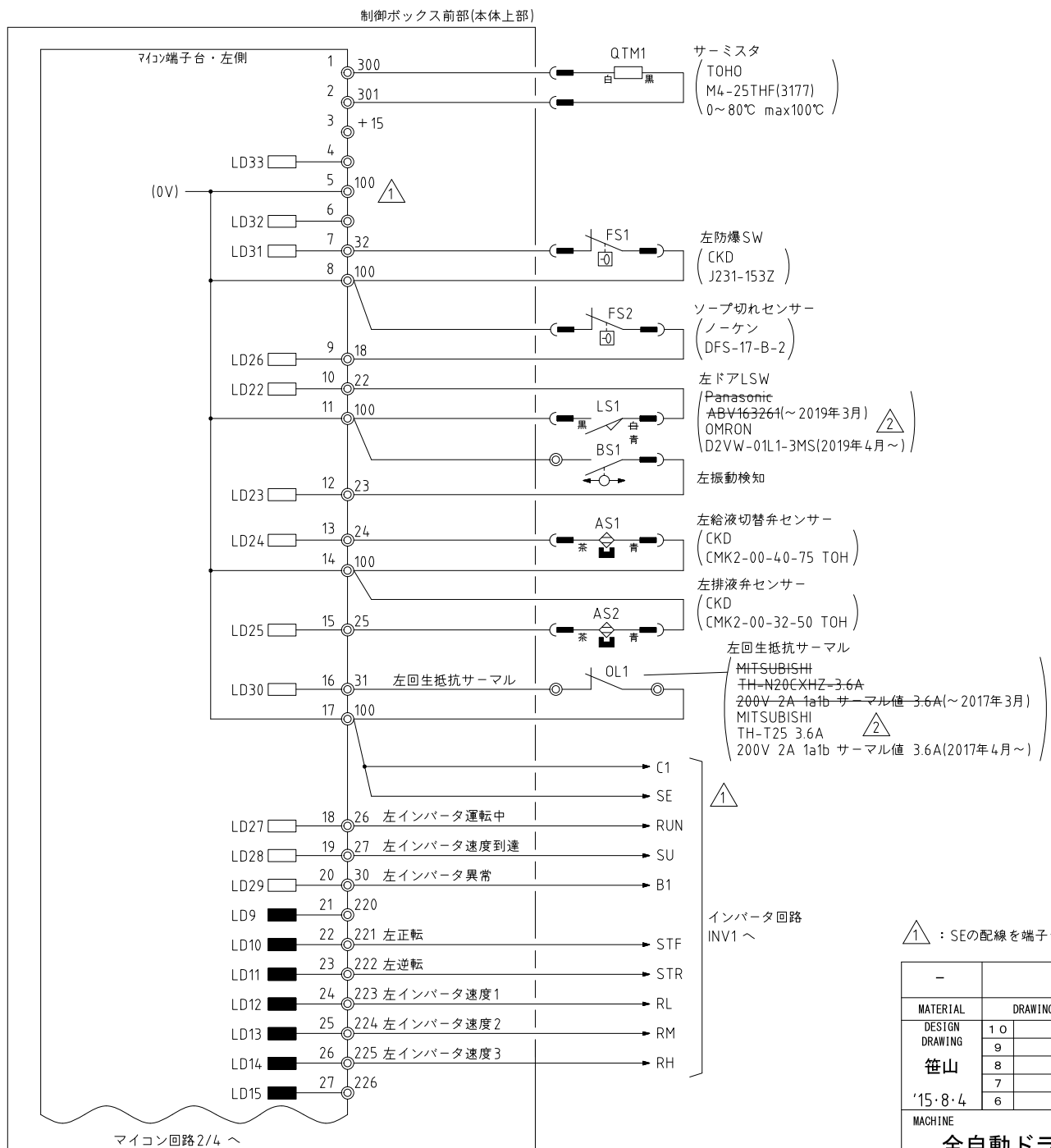
No.	点検・検査事項	点検箇所・点検内容	検査結果 (○・△・×)	処置内容 (△・×時の処理内容)
1	回転体異常の有無	運転時に異常な音・振動はないか		
		元電源を落とし機械を停止し、ドラムを手で上下させ、ドラムのガタツキがないか		
2	主軸軸受部異常の有無	運転時に異常な音・振動はないか		
3	外枠異常の有無	運転中、異常な振動はないか(目視)		
4	前各号に掲げる部分のボルトの緩み有無 (必ず元電源を切り、機械が停止してから点検の事)	軸受ケース固定ボルト及び、主軸固定ナットの緩みはないか		
		モーター取付部のボルト及び、ナットの緩みはないか		
		その他固定ボルト及び、ナットの緩みはないか		

注1) ○：良好に付修理不要 △：都度判断 ×：不良に付補修

注2) 毎年1年以内に実施のこと

備考欄(上記枠に記載できない事項を記載)

配布先	図
寸切	
資切	
シャ	
タレ	
バイ	
ブレ	
レーザ	
曲	
スピ	
ガス切	
ロール	
機械	
製缶	
特機	
一機	
二機	
三機	
○	
電気	
資材	
木型	
外注	
メッキ	
○	
控	
合計	
○	



△ LDxxについて
 (□: 入力)
 (■: 出力)

△ LDの入力と出力を明記
 ・LS1をUL対応品に変更
 ・OLのTH-Nシリーズが生産終了のためTH-Tシリーズに変更

△ LS1 (Panasonic ABV463264(~2019年3月) OMRON D2VW-01L1-3MS(2019年4月~))

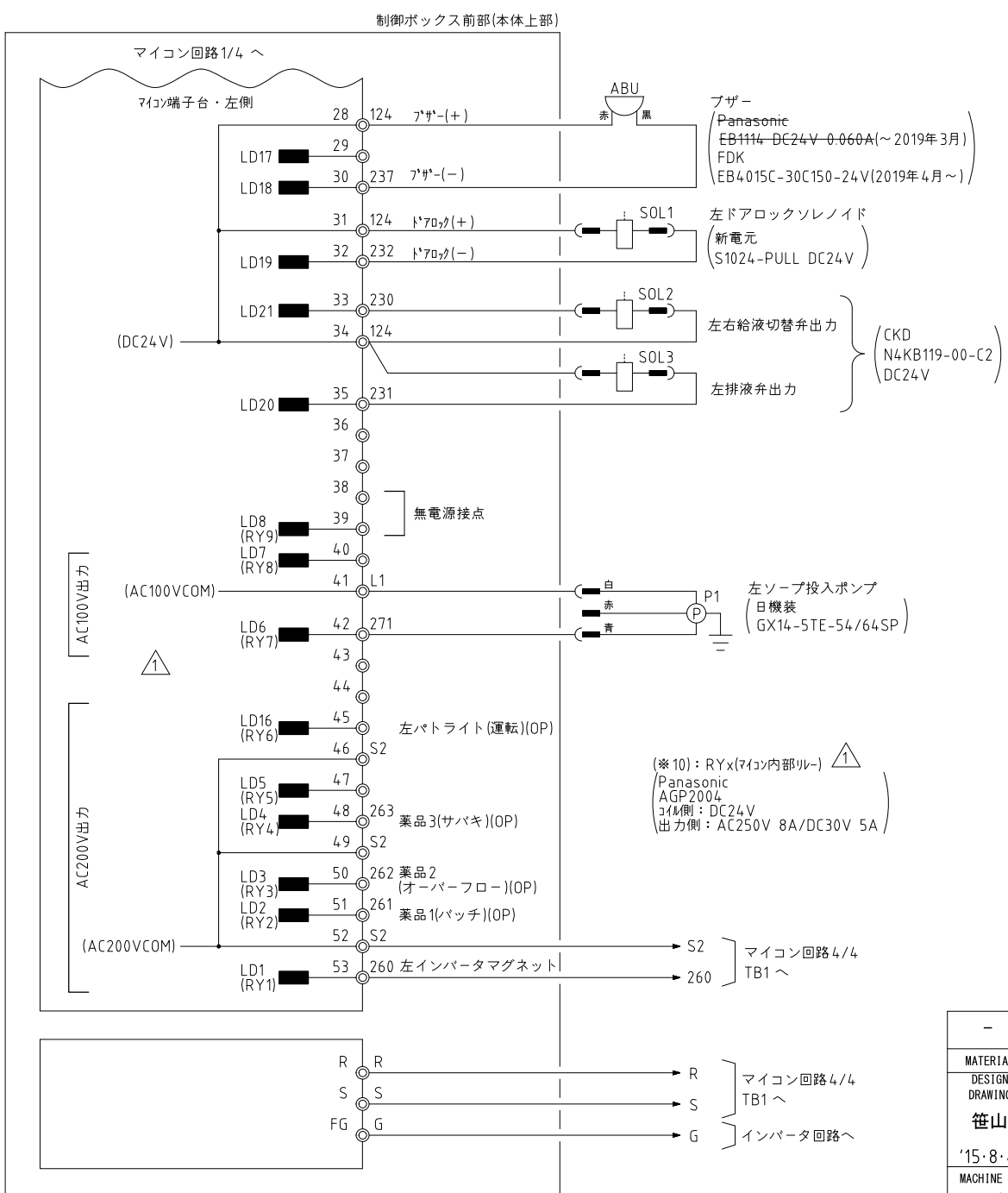
△ OL1 (左回生抵抗サーマル MITSUBISHI TH-N20CXHZ-3.6A 200V 2A 1a1b サーマル値 3.6A(~2017年3月) MITSUBISHI TH-T25 3.6A 200V 2A 1a1b サーマル値 3.6A(2017年4月~))

△ インバータ回路 INV1へ

△ SEの配線を端子台の5から17に変更(2015/08/20)

-		マイコン回路 1/4		-		-		-	
MATERIAL	DRAWING NUMBER	PARTS NAME		pcs	ABSTRACT		WEIGHT	LOT NO.	
DESIGN DRAWING	10	5	trig.	DRAWING NUMBER		製造開始日 DO220FW '04-1-1			
笹山	9	4	SCALE	FREE		DJXZ220 (1/7)			
	8	3							
	7	2						途中に記載	2015/8/20
15・8・4	6	1	SE→100の配線製所変更	2015/8/20					
MACHINE		PART		OLD DRAWING NUMBER					
全自動ドライ機		操作部		DO220FW					

配布先	図
寸切	
資切	
シャ	
タレ	
バイ	
ブレ	
レーザ	
曲	
スピ	
ガス切	
ロール	
機械	
製缶	
特機	
一機	
二機	
三機	
電気	
資材	
木型	
外注	
メッキ	
合計	

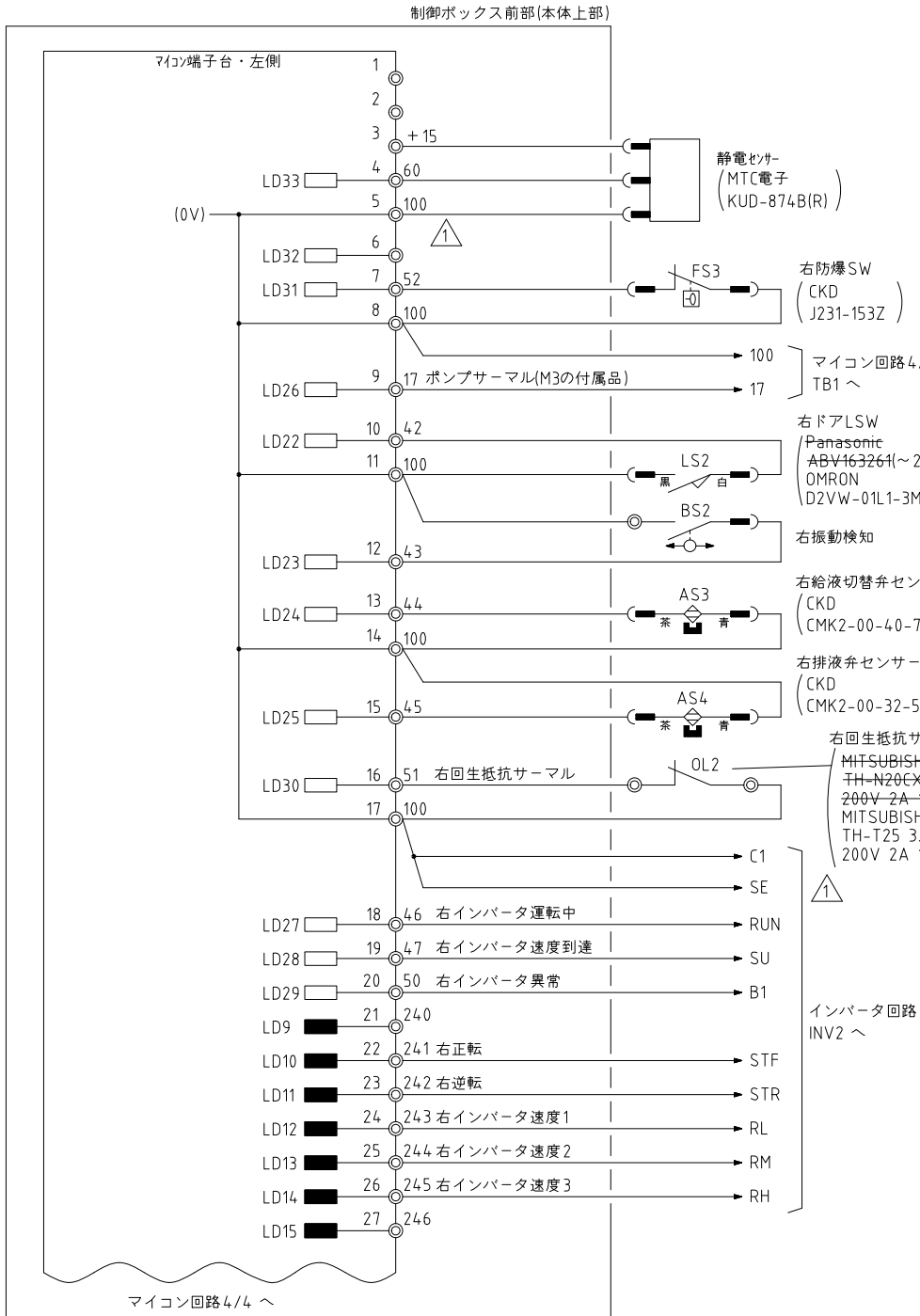


△ LDxxのについて
(□): 入力
(■): 出力

△ LDの入力と出力を明記
・ Panasonic製フザーが生産終了になったため、FDK製に変更

-		マイコン回路 2/4	-	-	-
MATERIAL	DRAWING NUMBER	PARTS NAME	pcs	ABSTRACT	WEIGHT LOT NO.
DESIGN DRAWING	10	5	trig.	DRAWING NUMBER	製造開始日 DO220FW '04-1-1
笹山	9	4	SCALE	FREE	DIXZ220 (2/7)
	8	3			
	7	2			
15・8・4	6	1	図中に記載 2019/5/10 マイコン部印の発給簿記 出力電圧を明記 2016/1/15		
MACHINE	PART		OLD DRAWING NUMBER		
全自動ドライ機	操作部		DO220FW		-

配布先	図
寸切	
資切	
シャ	
タレ	
バイ	
ブレ	
レーザ	
曲	
スピ	
ガス切	
ロール	
機械	
製缶	
特機	
一機	
二機	
三機	
○	
電気	
資材	
木型	
外注	
メッキ	
○	
控	
合計	
○	



△ LDxxのについて
 (□ : 入力)
 (■ : 出力)

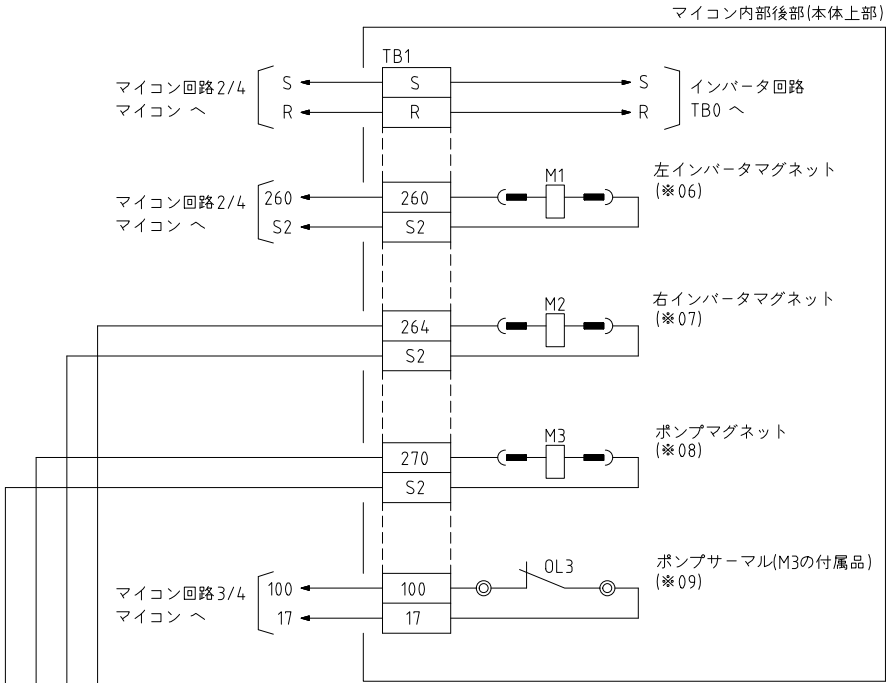
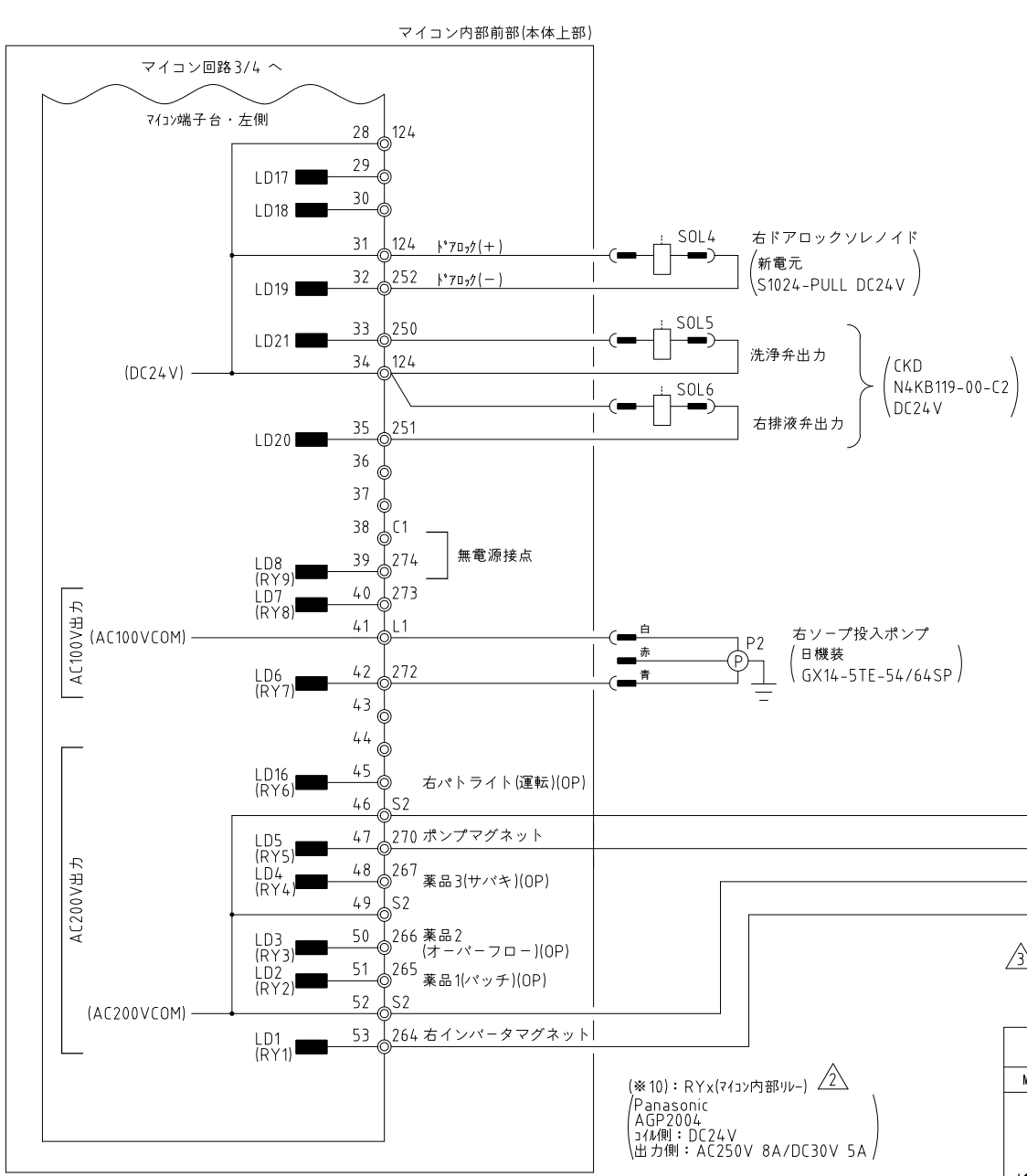
- △ LDの入力と出力を明記
- ・ LS2をUL対応品に変更
- ・ OL2のTH-Nシリーズが生産終了のためTH-Tシリーズに変更

△ 1 : SEの配線を端子台の5から17に変更(2015/08/20)

△ 1 : SEの配線を端子台の5から17に変更(2015/08/20)

-		マイコン回路 3/4		-		-	
MATERIAL	DRAWING NUMBER	PARTS NAME		pcs	ABSTRACT	WEIGHT	LOT No.
DESIGN DRAWING 笹山	10	5		trig.	DRAWING NUMBER 製造開始日 DO220FW '04-1-1		
	9	4		SCALE FREE	DIXZ220 (3/7)		
	8	3					
	7	2	途中に記載 2015/8/20				
	6	1	SE→10の配線箇所変更 2015/8/20				
MACHINE 全自動ドライ機				PART 操作部		OLD DRAWING NUMBER	
				DO220FW		-	

配布先	図
寸切	
資切	
シャ	
タレ	
バイ	
ブレ	
レーザ	
曲	
スピ	
ガス切	
機械	
製缶	
特機	
一機	
二機	
三機	
電氣	
資材	
木型	
外注	
メッキ	
合計	



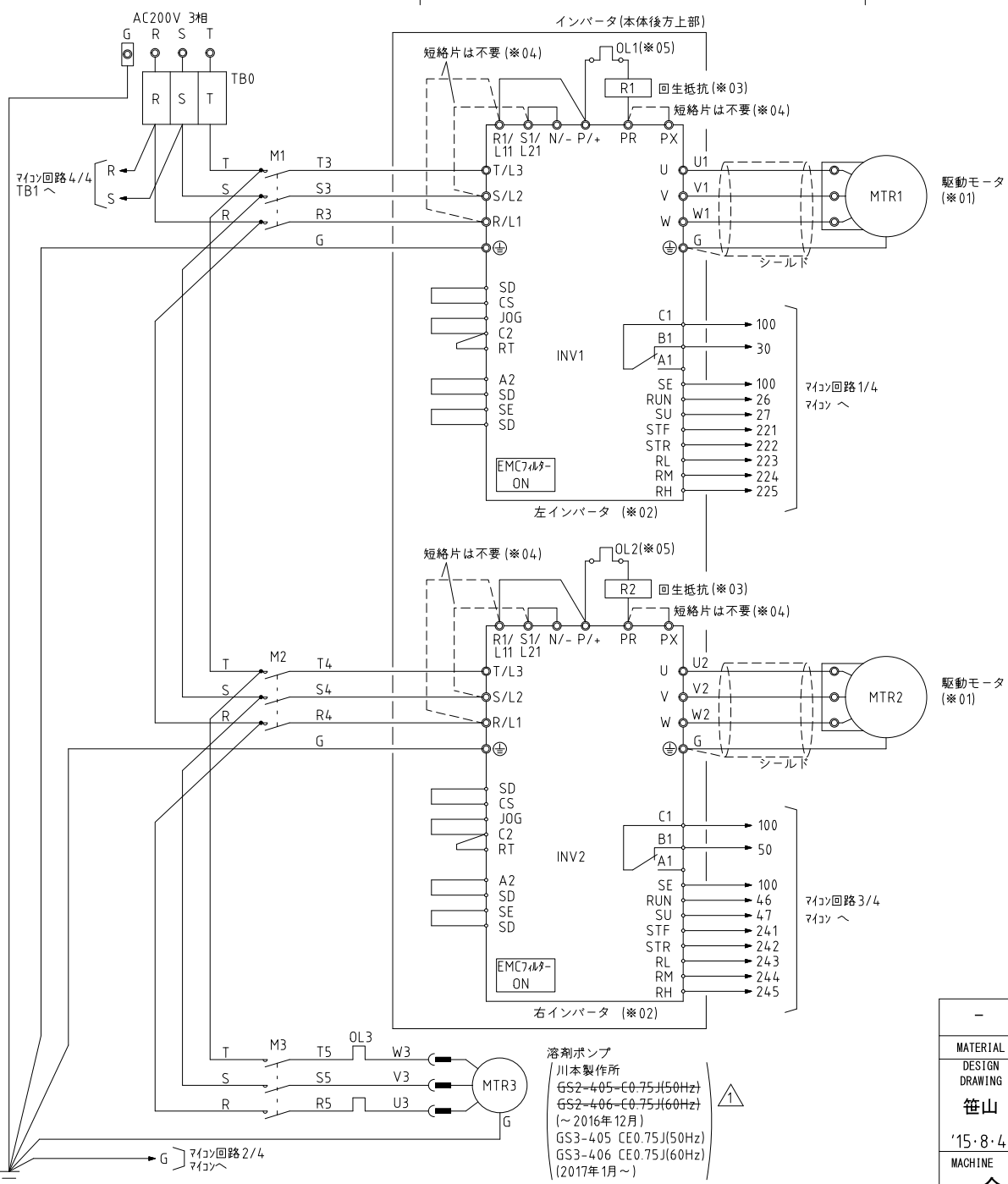
※	記号	型式・概要	製造元
06	M1	S-N25 200V 18A 補助接点2a2b (~2015年12月)	MITSUBISHI
		S-T35 200V 35A 補助接点2a2b (2016年1月~)	
07	M2	S-N25 200V 18A 補助接点2a2b (~2015年12月)	MITSUBISHI
		S-T35 200V 35A 補助接点2a2b (2016年1月~)	
08	M3	MSO-N10 200V 11A 補助接点1a サ-7M値5A (~2015年12月)	MITSUBISHI
		MSO-T10 200V 11A 補助接点1a サ-7M値5A (2016年1月~)	
09	OL3	TH-N12 200V 5A (~2015年12月)	MITSUBISHI
		TH-T18 200V 5A (2016年1月~)	

△ LDxxについて
 () : 入力
 (■) : 出力

(※10) : RYx(マイコン内部リレー)
 Panasonic
 AGP2004
 コイル側 : DC24V
 出力側 : AC250V 8A/DC30V 5A

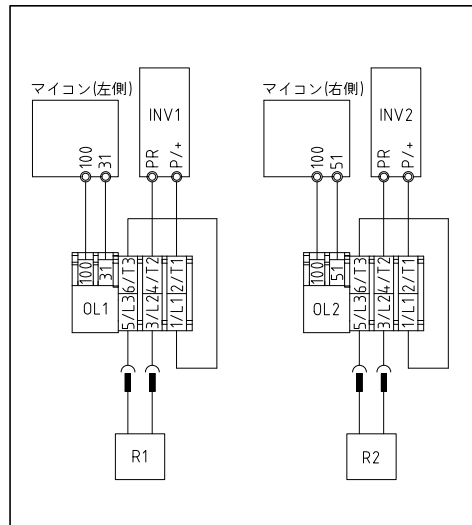
-		マイコン回路 4/4		-		-	
MATERIAL	DRAWING NUMBER	PARTS NAME	pcs	ABSTRACT	WEIGHT	LOT NO.	
DESIGN DRAWING	10	5	trig.	DRAWING NUMBER	製造開始日 DO220FW '04-1-1		
笹山	9	4	SCALE	FREE	DZXZ220 (4/7)		
	8	3					
	7	2					
	6	1					
MACHINE	PART		OLD DRAWING NUMBER				
全自動ドライ機		操作部		DO220FW		-	

配布先	図
寸切	
資切	
シャ	
タレ	
バイ	
ブレ	
レーザ	
曲	
スピ	
ガス切	
ロール	
機械	
製缶	
特機	
一機	
二機	
三機	
○	
電気	
資材	
木型	
外注	
メッキ	
○	
控	
合計	
○	



※	記号	型式・概要	製造元
01	MTR1	SF-PR 6P 3.7KW(特巻) 200V 60Hz 15A(2015年 8月~)	MITSUBISHI
	MTR2	IKH-FBK8-6P-3.7KW(特殊・コ-ルト) 200V 60Hz 15.6A (~2015年 7月)	TOSHIBA
02	INV1	FR-A820-3.7K 17.5A(2015年 8月~)	MITSUBISHI
	INV2	VFA51-2037PL 3.7kw 17.5A(2008年12月~2015年 7月) VFA7-2037PL 3.7kw 16.6A(~2008年11月)	TOSHIBA
03	R1	FR-ABR-3.7K(2015年 8月~)	MITSUBISHI
	R2	CAB394 500W-25Ω(2012年12月~2015年 7月)	チバ・テクノ
	R2	PBR3-2037-G15A(~2012年11月)	TOSHIBA

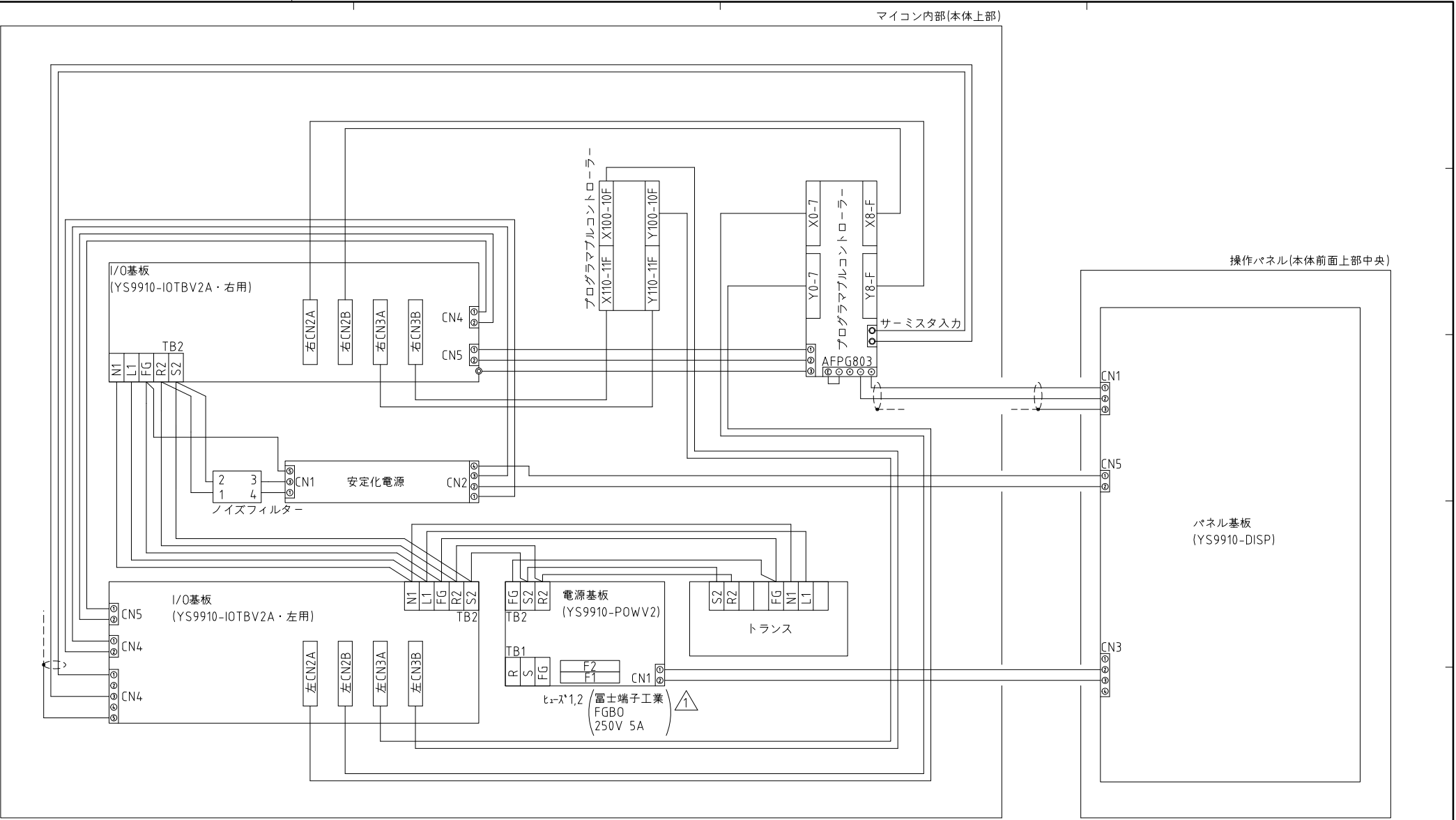
(※04): ① R1/L11 ↔ R/L1 , S1/L21 ↔ S/L2 は渡り無し
 ② R1/L11 ↔ P/+ , S1/L21 ↔ N/- は渡り有り
 ③ PR ↔ PX は渡り無し
 上記の ① ② は停電停止機能を有効にするために行う
 ③ は回生抵抗を接続しているために行う



(※05): 回生抵抗サーマルの接続図

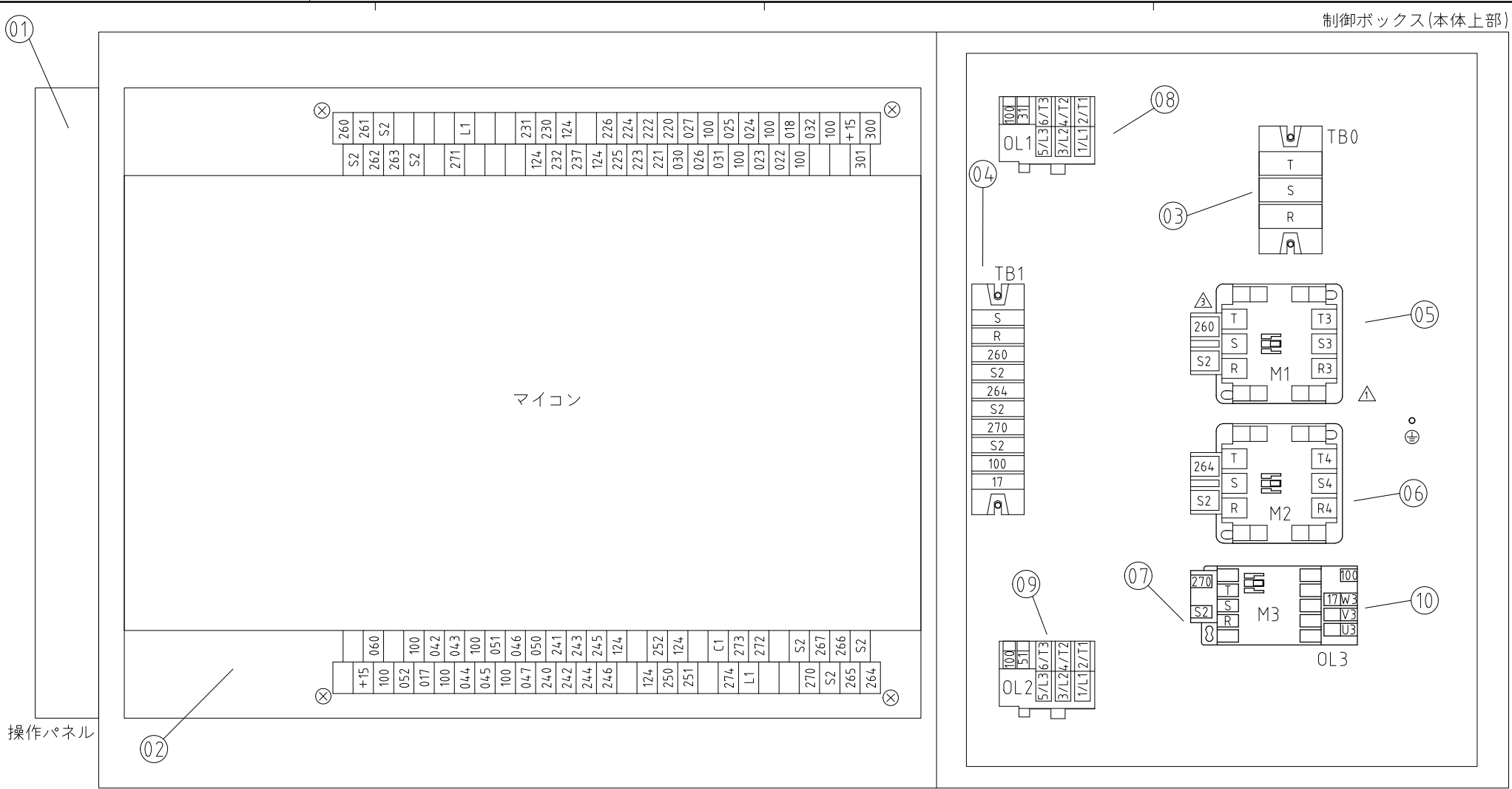
-		インバータ回路		-		-	
MATERIAL	DRAWING NUMBER	PARTS NAME	pcs	ABSTRACT	WEIGHT	LOT NO.	-
DESIGN DRAWING	1 0	5	trig.	DRAWING NUMBER	製造開始日 DO220FW '04.1-1		
笹山	9	4	SCALE	DJXZ220 (5/7)			
	8	3	FREE				
	7	2					
'15.8.4	6	1	2019/5/10				
MACHINE	PART		OLD DRAWING NUMBER				
全自動ドライ機		操作部		DO220FW		-	

配布先	図
寸切	
資切	
シャ	
タレ	
バイ	
ブレ	
レーザ	
曲	
スピ	
ガス切	
機械	
製缶	
特機	
一機	
二機	
三機	
電気	
資材	
木型	
外注	
メッキ	
控	
合計	



-		マイコン内部配線図		-			
MATERIAL	DRAWING NUMBER	PARTS NAME		pcs	ABSTRACT	WEIGHT	LOT NO.
DESIGN DRAWING 笹山 '15・8・4	10	5		trig.	DRAWING NUMBER	製造開始日 DO220FW '04・1・1	
	9	4		SCALE	DJXZ220 (6/7)		
	8	3		FREE			
	7	2					
	6	1	1	1:1の明記	2015/10/02		
MACHINE	全自動ドライ機		PART	操作部		DO220FW	OLD DRAWING NUMBER
						-	-

配布先	図
寸切	
資切	
シャ	
タレ	
バイ	
ブレ	
レーザ	
曲	
スピ	
ガス切	
ロール	
機械	
製缶	
特機	
一機	
二機	
三機	
電気	
資材	
木型	
外注	
メッキ	
控	
合計	



No.	記号	型式	製造元
01	操作パネル	YS9910	三光電子製作所
02	マイコン	YS9910	三光電子製作所
03	TB0	TK301 3P	壬生電機製作所
04	TB1	TK152 10P	壬生電機製作所
05	M1	S-T35 200V \triangle	mitsubishi
06	M2	S-T35 200V \triangle	mitsubishi
07	M3	MSO-T10 200V \triangle	mitsubishi
08	OL1	TH-N20CXHZ-3.6A (~2017年3月) TH-T25 3.6A (2017年4月~) \triangle	mitsubishi
09	OL2	TH-N20CXHZ-3.6A (~2017年3月) TH-T25 3.6A (2017年4月~) \triangle	mitsubishi
10	OL3	TH-T18 5A(M3の付属品)	mitsubishi

MATERIAL	DRAWING NUMBER	PARTS NAME	pcs	ABSTRACT	WEIGHT	LOT NO.
DESIGN DRAWING	10	5	trig.	DRAWING NUMBER		製造開始日 DO220FW '04-1-1
笹山	9	4	SCALE	FREE	DIXZ220 (7/7)	
	8	3				
	7	2				
	6	1				
MACHINE	全自動ドライ機		PART	操作部	DO220FW	OLD DRAWING NUMBER
						-